

会議議事録

事業名	平成30年度「専修学校による地域産業中核の人材養成事業」 建設分野における産学協同教育体制のためのガイドライン作成事業
代表校	専門学校日本工科大学校
会議名	デュアル教育推進会議(第1回)
開催日時	平成30年8月22日(水) 17:30～19:30(2h)
場所	専門学校日本工科大学校 会議室
出席者	<p>①委員</p> <p>・安孫子勇一、井上雅仁、今泉清太、宇高雄志、内海秀明、柏本 保、片山俊行、近内広樹、酒井直樹、高嶋靖生、高原一岐、田中政人、所 達弘、中農一也、難波利行、長谷川武義、濱本一志(一幡孝明委員代理出席)、堀内秀樹、増田和仁、毛利幸弘、森本徹之、吉川隆治、和田秀勝(計23名)</p> <p>③事務局</p> <p>・古河邦彦(計1名)</p> <p>(参加者合計24名)</p>
議題等	<p>会議の目的、次第、内容等を記載(必要に応じて別紙等で補足)</p> <p>【会議目的】</p> <p>・平成30年度事業概要と使用するツールの検討、スケジュール、各部会で協議する項目の意見交換と確認を目的とした会議を開催した。</p> <p>【次第】</p> <p>日時:平成30年8月22日(水)17:30～19:30 会場:専門学校日本工科大学校 会議室</p> <p>1.開 会</p> <p>2.事業代表挨拶</p> <p>3.議 事</p> <p>(1)平成30年度事業概要</p> <p>(2)平成30年度スケジュール</p> <p>(3)各ワーキンググループでの協議事項</p> <p>・受入企業「インターンシップ指導のポイント」アンケート調査及びアンケート調査実施企業、インターンシップ受入企業依頼アドバイス(第1回)・「受入企業指導ポイント」・アンケート結果まとめ(第2回)</p> <p>(4)デュアル推進フォーラム</p> <p>・平成30年11月22日(木)14:30～17:00 (平成30年11月22日(木)17:30～19:30:第2回推進委員会・評価委員会)</p>

議題等	<p>4. その他</p> <ul style="list-style-type: none">・旅費等の事務処理について <p>5. 閉 会</p> <p><配布資料></p> <ul style="list-style-type: none">・議事次第・推進委員会委員名簿・事業の実施体制イメージ図・企業内実習・参加者情報カード(案)・学修深化フィードバックシート(案)・デュアル教育アクティブラーニングプロセスイメージ・平成30年度スケジュール・デュアル教育推進フォーラム(案) <p>【内容】</p> <p>以下、次第に沿って会議が進められた。</p> <p>1. 開 会・・・</p> <p>事業責任者の片山校長の挨拶によって第1回の推進会議が開催された。</p> <p>2. 事業代表挨拶・・・</p> <p>本日はお忙しい中ご出席いただきまして誠にありがとうございます。平成28年度より研究事業の委託を請けて、委員の方々からのご助言等をいただきながら企業内実習を行ってきて、今年度最後の年になります。</p> <p>文科省から本校は色々とインターンシップを実施しているが、全国のどの建設系専門学校でも可能になるようにしてほしい、座学と実習を関連付けたカリキュラムの作成、学習到達度を示すルーブリックの作成、企業と企業内実習・インターンシップの協力を強化していくなどの声があり、これらの意向も網羅しながら、最終的にまとめていきます。本年度も委員の皆様方のご協力をお願いいたします。</p>
-----	---

議題等

3. 議 事・・・

(1) 平成30年度事業概要

事業の実施体制イメージ図の流れに沿って、平成30年度に実施する5つの項目について説明が行われた。

① 学びの履歴に関する個人調書のフォームを職種ごとに作成・実証

昨年度、実習する学生の事がわからない、どのような学習を受けてきたのかという受入企業の指摘から、本年度は学びの履歴に関する個人調書フォームを作成し、実習に望み、最終的に企業に判断してもらう(配布資料:企業内実習・参加者情報カード(案)参照)。各WGで協議をする。等

② 実習のノウハウを共有化するため、指導のポイントを職種ごとに作成・実証

文科省の全国の企業の参考となるものを作ってほしいという指摘に対して、兵庫県地区を中心として何度も受け入れている企業が持っているノウハウ等を共有化することを考えている。等

③ 実習の成果を内面化し、学修の深化を「見える化」するフィードバックシート等の開発

文科省からの指摘事項である。デュアル教育は、実習と学習との相互作用によって深めることであるが、実習によってどのように深めることができたのかを「見える化」にするための取り組みである。既習と実習、今後といった部分へ学生に書いてもらい、学習との関連付けを行う。それとともに、教員はこれをもとに教員は評価するというように考えている(学修深化フィードバックシート(案))。等

④ 新たに取り組む学校への支援(受入企業開拓方法、学修深化スキルマップの作成)

文科省からの指摘事項である。全く新しく取り組む学校に対してのポイント的なものである。各WGで協議を行い、そのポイントを整理していきたい。等

⑤ 知識・技能を高めるデュアル教育スキルの明確化

文科省からの指摘事項である。デュアル教育自体が能動的なアクティブラーニングであり、教師ではなく学生が主体的となり学んでいく学習方法である。デュアル教育をどのようなプロセスで進めればよいのかを整理したもので、実証・検証していく(配布資料:デュアル教育アクティブラーニングプロセスイメージ参照)。等

評価については、これまでと同様に各WG会議の第2回目で実施し、汎用性を高める。

また、学識経験者や行政の方々による第三者評価委員会、8月末に土木教育研究員全国大会で、昨年度作成した冊子を配布し、評価をいただくことを考えている。

委員の皆様からご意見をいただきたい。 等

議題等

【以下、意見交換が行われた】

＜企業内実習・参加者情報カード(案)＞

・使用することで実習内容が変わることはないと思うが、どのような学生が実習に来るのかという情報を提供した方が、企業も受け入れ易いと思われるがどうか。意見をお聞きしたい。

→企業側の考えだけで進めるのではなく、ある程度学生側の希望も踏まえながら進めることができるのは、学生にとってメリットがあると思う。設計・施工・マイスターも同じ様式で進める方向である。

→インターンシップの期間はどうなっているのか。

→職種によって異なる。設計は1週間連続して実施している。施工は週1～2日で実施している。

→このインターンシップ期間内であれば、行ける学生行けない学生が出て来るが、色々に行けるのではないのかと思う。将来的を見るとインターンシップを活用して動機付けができる。

→学校側から参加する学生に対しての情報は、このカード以外にもあるのか。また、学校以外の現場で教えてほしいこととか。

→経験させてほしいという考えは学校側ではあるので、このカードに入れるかの検討をいただきたい。個人的な情報である。

→別途、それぞれの協議で決定していく。

→7の苦手・学習の部分は職種によって異なると思われるが、マイスターには必要ない。学習で得意なものでも現場では関係は無く、得意なものを書いてもらった方が良い。

→施工の場合は、できるかできないかの問題であるため必要は無い。

→興味がある、得意なものを書けば十分であるということ。

→測量が得意などの実務的なものは分かるが、学科の何が好きということは必要ない。流れの中で教えているので、学校側から何を教えてほしいのか要望があれば可能な限り対応していきたいと思う。

→設計で色々な学科をしておくというもので、おそらくこの内容は設計の方で抽出していると思う。例えば、企業側にCADの使い方を教えてほしいと要望を出しても、学生が苦手な場合がある。そのようなことを受入側に事前に理解してもらうためのものである。

→このカードがCADを含めてのものであれば良いと思う。別の企業のものでも使えるのであれば良いと思う。

→習熟度を測る目的ではあるが、苦手意識がある中で、企業側がその情報を知らずに入れると最終的にCADを使えるようにはならなかったとなる。

<p>議題等</p>	<p>→逆に、設計事務所にCADが苦手な学生を入れることは見送った方が良いと思う。</p> <p>→設計、施工、マイスターの苦手教科の部分は変更した方が良い。</p> <p>→助かるカードで良いと思う。年齢が離れているため、同じに見えてしまう。追加項目として、学校側の要望、参加学生の性格について、自己と学校側で書き込む欄がさらに良くなると思う。</p> <p>→連絡先があるのが良い。学生に企業情報を学生提示できれば良いと思う。</p> <p>→準備段階で企業情報の提供は学校側で整理する。</p> <p>→受入企業に事前に情報があることは良いと思う。何も無い状態で書くことは結構苦勞すると思われる。示し合わせたように同じ内容にならないように、学校側の指導が必要と思う。ただ、無理に書かせることはなく、何も書けなくてもよい。</p> <p>→受入企業側の意見として、この学生は横を見て書くことはない。分からないものは分からないなりに自分で書いている。</p> <p>→分からないなりに埋めるように指導している。</p> <p>→電話番号の書く欄があるが、自宅の電話番号を書いて連絡がつかない可能性もあるため、学生に負担がなければE-mailの欄があった方がよいと思う。</p> <p>また、職種により右利きや左利き、コンタクトレンズ、高所について必要なものと思われるので、あるとよいと思った。</p> <p>他には、6の興味がある学習・得意教科と7の苦手・学習の部分について、何故そのように思うのかの理由を自己申告で書く欄あればよいと思った。属性が知りたいという企業に対してあればよいと思った。</p> <p>→学生の趣味や特技の欄を入れた方が、学生とコミュニケーションをとるためにも入れた方がよいと思った。等</p> <p>→発表されましたご意見につきましては、各部会で検討・整理して反映できるものはしていく。等</p> <p><学修深化フィードバックシート(案)></p> <p>・なかなか難しい部分であるが、実習で学んだことを通常の学習に結び付けていくのかということを考えて、この表を作成したがどうか意見を聞きたい。</p> <p>→確かに、実習の評価を見える化するには難しい。文科省委託事業を請負っているが、そこで行っているのは、その履修度合いを測るためにレベルの及第点に届いているかどうかをそれぞれの段階で評価できるよう、数値化したスキルマップを作成している。</p> <p>評価のチェックは客観的評価をするために、企業で行ってもらおう。学生自身がどこまでレベルアップしたのか分かるように、企業と評価項目について確認しながら行うものを作成している。学生自ら言葉で書くとなると主観が入ってくるため、避けた方がよいと思う。</p>
------------	--

議題等

- 文科省のルーブリックはこのようなイメージなのか。
- 客観的に見えるように数値化する。技術的・技能的なレベルのものを1～5段階で評価するといったものになると思う。
- 職種毎に項目を作るのか。
- 一度作るとスキルマップは使い勝手がよくなると思う。マトリクス図のような形で期間とレベルが客観的に見えるようになると思う。
- そうすると、学校に当てはめると1年生の時の評価を残しつつ、2年生の時も再評価するといった形になるのか。
- そうである。
- 学生が教科書で見たものを現場で見ると振り返りとなるため、深く学べると思う。
- インターンシップは積極的には行っていない。設計事務所は多くあるのが、施工関係は邪魔になるのでなかなか実施できない。進化の見える化を考えているが、座学は比較的容易ではあるが、実習と演習は難しい。評価の方法の公開についての準備段階である。検定の取得や成績表の張り出し、学生自ら目標を設定して、その到達度を教員と話し合いながら行っている。
- 学生が経験するとなると、生き様を含めた総合的な体験であると思われる。書き方として、学校で学んだ具体的な科目の部分が実習によって結びついたものが分かるということを書いていくという理解でよいのか。
- その通りである。
- そうであれば、このシートはよいと思う。ただ、書く欄を大きくした方がよいと思う。
- 当初のインターンシップは実際の現場を事前に学生に知ってもらい、雇用のミスマッチを防ぐことを目的としていた。
- ①で漏らさず記入となると5つで足りるのか。項目だけであれば5つでもよいと思うが、感動したことなどを入れるとなると少ない方がよいと思うので、それぞれの部会で話し合っていたきたい。
- ②と③の言い回しが分かり辛いので、分かり易い表現に修正した方がよいと思う。それぞれの学校の想いもあるため、デュアル教育を採用する学校に対して、適宜意見出して修正できるなどの柔軟さがあることを表記してもよいと思うので、この点も検討いただければと思う。
- 色々ご意見ありがとうございます。数値化するより、文字で見える化や数値化で見える化するなど色々な方法があるが、このことは各部会で検討していくのか。
- 一度、学生に書かせたものを各部会で協議するといった方向がよいと思われる。
- 点数評価か文章評価かはこれからだが、はっきりと見えるようにすることを考えなければならない。
- 点数で表すと評価のための評価になりかねないため、その点は注意していきたい。

<p>議題等</p>	<p>→設計で学んだことなのか、工期で学んだことなのかなどが分かるシートにした方がよいと思う。</p> <p>→根性論的なものもある。 等</p> <p><デュアル教育アクティブラーニングプロセスイメージ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・動機付け、準備活動、事前指導はあるが、このことに対してご意見を聞きたい。 →ここまでのプロセスを持った動機づけのものは無い。授業の一環として行くべきものであるということまでである。 →1回行かせた後に、反省等を書かせることが多い。行く前の事前指導はなかなか時間が取れないのが現状である。簡単な履歴書などを教員がひとつのツールとして作成している。 →経験した学生に発表させて聞かせるのがよい。学生が話をすると他の学生は先生の話よりもよく聞く。先輩の話などを入れるとよいと思う。準備活動や動機付けなどに活用できると思う。 →全員がインターンシップに行っていないが、教員が事前に現場に行って見るポイントを打ち合わせし、資料を作成して一度授業のようなものを行い、見学にしている。このイメージからは、振り返りがとても重要ということが分かり、今後、取り入れていきたいと思う。 →実際に、このプロセスを採用できると思うか。 →できると思う。 →職種によって異なるので、このプロセスイメージは最終的には各部会で検討していった方がよいと思う。 →詳しくは、各部会で検討する。 等 <p>(2)平成30年度スケジュール</p> <p>各部会会議とフォーラムのスケジュールの確認が行われた(配布資料:平成30年度スケジュール参照)。</p> <p>(3)各ワーキンググループでの協議事項</p> <p>各部会の協議内容については、第1回目は、課題として挙げていることに対して、職種ごとの特殊を踏まえて、受入企業の指導のポイントのアンケート調査、新たに受入をする学校に対してのアドバイスについて行う。第2回目は、アンケート結果のまとめと積み残しの協議を行う。(配布資料:平成30年度スケジュール参照) 等</p> <p>(4)デュアル推進フォーラム</p> <p>フォーラムのテーマは、「キャリアビジョンと職業能力・意識を育成する実務・教育連結型人材育成システムの創造」、業界企業と学校が連携して即戦力を育成するのか、職業意識の高い学生を育成するのか。という内容で行う。</p>
------------	--

議題等

開催日時、開催場所、参加予定者、後援名義依頼、フォーラムの概要の説明が行われた。学生を中心としたパネルディスカッションと各職種の企業の方からのパネルディスカッションを行う(配布資料:デュアル教育推進フォーラム(案)参照)。

→興味深いテーマでよいと思う。

→学生も参加できることがよいと思う。等

【会議風景】



本日は、お忙しい中長時間におよぶ会議にご出席いただきましてありがとうございます。今後もよろしく願いいたします。との言葉で会議散会となった。

以上

会議議事録

事業名	平成30年度「専修学校による地域産業中核的人材養成事業」 建設分野における産学協同教育体制のためのガイドライン作成事業
代表校	専門学校日本工科大学校
会議名	デュアル教育推進会議(第2回)
開催日時	平成30年11月22日(木) 17:30～19:30(2h)
場 所	専門学校日本工科大学校 会議室
出席者	<p>①委員</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安孫子勇一、井上雅仁、内海秀明、柏本 保、片山俊行、近内広樹、酒井直樹、高嶋靖生、高原一岐、田中政人、所 達弘、中農一也、難波利行、長谷川武義、濱本一志(一番孝明委員代理出席)、堀内秀樹、増田和仁、毛利幸弘、森本徹之、吉川隆治、和田秀勝(計22名) <p>②オブザーバー</p> <ul style="list-style-type: none"> 文部科学省総合教育政策局生涯学習推進課専修学校教育振興室 ・福島健太(計1名) <p>③事務局</p> <ul style="list-style-type: none"> ・古河邦彦(計1名) <p>(参加者合計24名)</p>
議題等	<p>会議の目的、次第、内容等を記載(必要に応じて別紙等で補足)</p> <p>【会議目的】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・デュアル教育の汎用的なツールとして作成した啓発動画について意見交換と確認を目的とした会議を開催した。 <p>【次第】</p> <p>日時:平成30年11月22日(木)17:30～19:30 会場:専門学校日本工科大学校 会議室</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.開 会 2.事業代表挨拶 3.議 事 <ul style="list-style-type: none"> (1)デュアル教育啓発動画 4.その他 <ul style="list-style-type: none"> ・旅費等の事務処理について 5.閉 会 <p><配布資料></p> <ul style="list-style-type: none"> ・議事次第 ・デュアル啓発動画シナリオ

議題等

【内容】

以下、次第に沿って会議が進められた。

1. 開 会…

事業責任者の片山校長の挨拶によって第2回の推進会議が開催された。

2. 事業代表挨拶…

先ほどは、フォーラムのご参加誠にありがとうございました。本日の会議は、デュアル教育の啓発動画についての議題を中心として開催いたします。皆様の忌憚のないご意見をいただきたいと思っております。

3. 議 事…

当学院の理事長からの言葉通り、本日はデュアル教育啓発動画についてご意見をいただく会議です。動画の時間は約15分のもので、動画の流れは、シナリオを配布資料としてお配りしています。この流れで動画を作成していますので、修正点等につきましてご意見をいただければと存じます。

【15分ほどの動画視聴】

【意見交換】

・15分ほどの時間で作成したたたき台ですが、この啓発動画が他の学校へデュアル教育を推進するにあたり、活用できるかのご意見をいただきたい。

→学生が顎紐をしていない画や腕まくりしている姿の作業画、軒に乗っている屋根板のところなどは発信してほしくない。多分、ISO違反である。全国の中堅以上の建設会社の現場の服装は、半そで、もしくは腕まくりは禁止されているはずであるため修正が必要である。

→測量の画像でもヘルメットが必要である。道路に出るのであれば安全第一ということからも辞めてほしい。

→学生の腕まくりや服装からも辞めてほしい。せめて法律は守った内容で発信してほしい。安請け合的なのは発信してほしくない。

→承知しました。安易に作成していたようなので、しっかり守った映像を選定して入れ替えるようにする。また、部会毎に進めているので映像の偏りが無いように均等にして作成する。それぞれの立場でご意見を伺いたいが他にあるのか。動画を見ることで他の学校が取り組みのイメージができるように作成したいと考えているがどうか。

→あたり前のことばかりでは意味が無いのではないかと。もっと深い内容を盛り込んだ方が良いと思う。

→全体の構成は

<p>議題等</p>	<p>→はじめに産学協同でデュアル教育を通して即戦力育成の趣旨から入り、形式的なものに対する課題を出し、実際にデュアル教育推進にあたっての推進の手順、募集選考から事後指導に至るような流れで作成している。最後に効果、まとめとスクロール的に作成している。</p> <p>→デュアル教育の効果の図の説明が無く伝わらないと思う。動画のフロー図の説明が短いことが要因と思われる。例えば、協会・組合、企業、学校の3者の関係のフォロー図に対し、まずは全体図を見せ、それから矢印に沿って説明が入るように作成する方が理解し易いと思うがどうか。</p> <p>→時系列で一つひとつ説明していく方向で作成していけばよいのか。</p> <p>→時系列で作成すると連携のイメージを捉えることができない、全体が見えなくなってしまう。まずは、関わる全体の図を出して、順次説明が入って行くと全体の関わり方・連携のイメージの理解ができると思う。</p> <p>→いきなり受け入れ企業との打ち合わせが入っても困惑してしまう。その前に、支えていただいている企業・団体の方々との協力を通じて成り立っていることを考えると、受け入れ企業の探し方についても地元の団体の方たちとの協力が必要であるなどのクッション部分があれば良いと思う。地元の志などを通じて受け入れ企業を探すなどがあれば望ましい。</p> <p>→受け入れ企業を探すのは相当困難な作業である。大学では多くの生徒数に対してどのように実施しているのか。</p> <p>→求人窓口やOBに対して関わっている部署が担当している。その他にキャリアサポートの部署があり、企業のOBを通して地元企業や地元企業との取引先企業に訪問してインターンシップをお願いしている。といった2種類ある。ただ、企業側も学校側も苦勞をしているそれぞれのノウハウのあることが伝わる。</p> <p>→大学のインターンシップを受け入れているが、見学会で終わっていることが多い。</p> <p>→設計のワークスタディーは他の県ではないのか。</p> <p>→設計のこのような形式は兵庫県独自と思われる。</p> <p>→兵庫県は恵まれている環境である。</p> <p>→動画で流れるバックには設計事務所はあまり画にならないと思う。</p> <p>→模型などを流せばよいと思う。</p> <p>→今回の動画は勉強している方や携わっている方にとっては理解できる内容と思われるが、携わっていない方々(学校含める)は分かり辛いものとなっていると思われる。例えば、本日のフォーラムのように学校側と企業側、学生などまとめるには難しいと思うが、それぞれの要望を汲んだ意見交換的な会話形式の動画であれば分かり易いと思った。ただ、ナレーションをどの立場で置くのが難しい。</p>
------------	---

議題等

- 今回の測定の動画はNGである。動画の中の文字量が多すぎると感じる。
携わってきた我々はこの事業の取り組みも分かるので入っていくが、初見の方は入っていかないと思う。本日のフォーラムのように、企業・学校・学生の立場のディスカッション形式や最も重要な受け入れ企業探しをメインに各協会への働きかけをメインに流し、各学校で不安な部分を反映・提供する。詳細なことは紙媒体で提供した方が良いと思う。
- 映画のように長編のものと短編のものがあればよいと思う。短編のものには各学校の課題や不安な部分を反映し、長編のものは興味が湧き、より深く知りたい部分を反映させる。といったようにバージョンをいくつか作成してみてはどうか。今回はよくまとまっていると思うので、2つ程作成してみてはどうか。
- 予算との兼ね合いで難しい。
- 携わっている我々は、言葉一つとっても多くを聞いているので通じるところがあるが、そうでない方には理解するのが難しいかもしれない。
- 共通する言葉があるのでそれを理解できるかということになる。
- 文字が多い、PR動画なので絵を多く入れて作成した方が良いと思う。
- 動画をシンプルにして、みんなで見られるように冊子も作り動画と一緒に提供してはどうか。
- 企業探しや学生からの声など大きな流れは動画で流し、詳細は冊子で確認してくださいなどの方法が良いと思う。
- 本日のフォーラムにおいて、みんなで良い意見交換したものがあるので、それを冊子に反映して作成してみてはどうか。
- 動画は入り易いので、簡単かつシンプルなものがよく、難しいもの(詳細なもの)は文章で冊子にした方がよい。動画と冊子の内容が重複しても、動画は柔らかく捉えるのできっかけ作りとして必要なことであり問題無いと思う。全てを動画で一まとめにするのは無理があるかもしれない。
- この動画は無理やり一まとめにしているように感じるので整理する必要があると思う。
- 出来上がったものを動画として流していくのは問題無いと思うが、教えている、学生が鋸で材木を切っている姿の動画は必要ないと思う。シンプルにインターンシップ(企業内実習)で作上げたものに対して文章を添え、動画として流すことで十分と思う。
- この動画を残す方向で考えると、インターンシップで色々なことをしている場面に関単に箇条書き程度でテロップを入れながら変更していく方が望ましい、実習で何を学んでいるのかが分かるため初めてインターンシップを考える方にとっては良いと思う。

<p>議題等</p>	<p>→一般的な文系の学問を教える学校であれば分かるが、工学を教えている学校に対しては丁寧過ぎる。しつこく嫌な感じがする。</p> <p>→同じ映像が何回も流れているところがあり、単調に感じた。可能であれば全体構成をはじめにもってきて流していけば見易いものとなると思う。</p> <p>→目次があれば見易くなる。</p> <p>→動画の種類において、どうしてもこの地区(兵庫県)が多いため町場が多くなる。全国の専門学校へ配るのであれば丁場の部分も必要である。</p> <p>顎紐や安全带を取り上げるにしても丁場であればきちんとしている。そのきちんとしている画像があって安全を含めた画像を増やす方法のあると思う。</p> <p>その他、画像が変わるのが速い、それに伴い文章を読むのに追いつかなし、画像を見ることもできないと思う。</p> <p>→15分という制約の中で作成しているため、情報量が多すぎるかもしれない。</p> <p>→皆さんの意見の通り、この手法で進めるのであれば画像を整理し、文章は別に作成する。</p> <p>もし、作り方を変更する事ができるのであればナレーションは辞めてほしい。個人的な考え方ではあるが、画像と音楽で盛り上がっていくような手法が良いと思う。</p> <p>ただ、本日の動画は単調的で面白味がなく、携わっていない方々には伝わり辛いと思う。全国版のモデルとして発信するのであれば、初めての方々にとっても学生が成長している過程を画像として面白く見せることができる内容を作成してほしい。</p> <p>→15分という長さはどうか。</p> <p>→適正だと思う。</p> <p>→短く限られた時間の中に想いを多く入れなければならないことに対して、苦労されていることが伝わる。</p> <p>ただ同時に、インターンシップなどの企業内実習を企業にお願いするにも、学生やその保護者に対しても、しっかりと決めて実施している所をみせることができるものであると感じた。</p> <p>改善点の意見として、学生目線での感想などが入っていれば良いと思った。その他、全国の専門学校へ配布するとなると、男社会が長い分野でもあるため、女性に対する部分もあれば良い、将来進むべき目標として目指している女子学生もいるので、受け入れ企業への対応として動画に入れることは必要であると感じた。</p> <p>→現場の更衣室などを含めた女性の配慮部分が用意されていることが必要ということ。</p>
------------	---

議題等

- 某建設会社から求人を求められて女性の体制を聞いたところ、今後検討していくという回答があった。今後の事を見据えると必要と感じた。
- 例えば、着工から竣工までの写真を流していく動画もあるので、そのようにしても良いと思う。
- 顔写真など勝手に使用して問題となることがあるので、個人情報の観点からも注意しなければならない。
- 本校の学生の場合は、許可をとっているので問題は無い。
- 楽しい画像があればよいと思う。
- 今回の皆様の意見をまとめ精査し、反映した動画の修正。作成をし直し、より良いものしていきます。等

その他、第三者評価委員会についてですが、1月の下旬に開催を予定している。日程調整については、後日、連絡します。

【会議風景】



本日は、3年間にわたる本事業の推進委員会会議は終了となります。成果報告書等ができましたらお送りいたします。
本事業に関わらず、引き続き、ご指導等のお願いいたします。との言葉で会議散会となった。

以上

会議議事録

事業名	平成30年度「専修学校による地域産業中核的人材養成事業」 建設分野における産学協同教育体制のためのガイドライン作成事業
代表校	専門学校日本工科大学校
会議名	設計部会会議(第1回)
開催日時	平成30年9月14日(金) 17:30~19:30(2h)
場所	専門学校日本工科大学校 会議室
出席者	①委員 ・内海秀明、柏本 保、片山俊行、所 達弘、中農一也、森本徹之、 吉川隆治、鷺尾和正(計8名) ③事務局 ・古河邦彦(計1名) (参加者合計9名)
議題等	会議の目的、次第、内容等を記載(必要に応じて別紙等で補足) 【会議目的】 ・企業内実習アンケートをはじめ、推進委員会での意見を反映した設計部会としてフィードバックシート、企業内実習・参加者情報カード、アクティブラーニング・プロセスイメージについて検討することを目的とした会議を開催した。 【次第】 日時:平成30年9月14日(金)17:30~19:30 会場:専門学校日本工科大学校 会議室 1.開 会 2.議 事 (1)受入企業「受入・指導のポイント」等のアンケート調査について ・アンケートの内容が読み上げられた。 ・アンケート配布先 (2)フィードバックシートについて (3)企業内実習・参加者情報カードについて (4)アクティブラーニング・プロセスイメージについて 3.事務連絡 4.閉 会

議題等

<配布資料>

- ・議事次第
- ・アンケート調査(案)
- ・フィードバックシート(案)
- ・企業内実習・参加者情報カード(案)
- ・アクティブラーニング・プロセスイメージ

【内容】

1. 開 会…

本年度第1回目の会議となります。推進委員会会議の議論でもございましたように、受入企業「受入・指導のポイント」等のアンケート調査のご意見を伺いたいと思う。また、フィードバックシート、企業内実習・参加者情報カード、アクティブラーニング・プロセスイメージについては、推進委員会会議の意見をもとに、修正・作成している。この点について設計部会として意見をお聞きしたく、よろしくお願ひいたします。という片山校長の言葉により、会議開催となった。

2. 議 事…

(1) 受入企業「受入・指導のポイント」等のアンケート調査について

企業がどのように工夫をしているのかということを中心に提案している。施工部会・マイスター部会はこれからとなる。全て記述式で作成しており、内容によっては選択式が妥当など含めたご意見をいただきたい。配布資料:アンケート調査(案)が説明を含めて読み上げられ、意見交換が行われた。

- ・インターンシップの受け入れを経験のもとに、回答していただく内容となっている。しかし、配布先にインターンシップを受け入れたことがない企業に対して失礼がないように「5・6」の項目を入れている。
 - ・3の受け入れ体制については、学校に対してのアドバイスである。
 - ・5は受け入れ体制を経験していない企業でも回答してほしい内容である。5-②は、はじめてインターンシップを行う助言項目である。
 - ・6のその他の趣旨は、専門学校と企業はインターンシップ以外の結びつきについて聞いている。等
- ここまでの中で意見を伺いたい。

議題等

【意見交換】

- インターンシップをしていない企業はどのような展開で進めるのか。
 - 府政環境の関連企業をはじめ、委員の方々のご協力をいただきたい。
 - 会員企業は発送の協力はできる。先に会員へ声を掛けてインターンシップへの意識をもってもらおうようにする。
 - 実習のプログラムは、インターンシップを受け入れた企業まかせなのか。
 - 基本的には受け入れ企業が考えるプログラムを採用している。受け入れ企業の実務の特徴を生かしている内容でもあるため、学校がプログラムに関与するものではないと考えている。
 - インターンシップは、新入社員教育と違う。例えば、CADにしてみても弊社は汎用性のない特別なものであるため、理解するのに1週間ほどの時間を費やす。これでは、学生が学べていない状況となるため、インターンシップにならないことになる。受け入れ企業のプログラムに左右されるのではなく、学生に学ばせたい内容を学校側が提示し、企業が沿うようにすることが必要と思う。
 - このアンケート(案)は、受け入れられている企業への項目はあるが、何故、受け入れられないのかという問いかけの項目が不足していて追加するべきである。例えば、CADソフトが違うという理由があるため、受け入れられない。といった声を引き出してることが目的と考える。
 - 監理の問題、設計を学べる環境といった振り分けができ、それを共有できるようにした方がよいと思う。
 - 学校の方針でもあるが、学生の希望と上手くマッチングできないと難しい。
 - この企業にはこの学生を入れるなどの方向で、企業の見極めができるようなものにしてほしい。
 - 3の受け入れ体制についての部分で書くことができるのは。
 - 受け入れ体制よりも、インターンシップそのものについて意見ができる記入欄があればよいと思う。
 - 6のその他に該当する。
 - インターンシップの充実というより、「新たに受け入れるためのお気づきの・・・」というような項目があればよいと思う。
- 発送先の名簿はお願いできるのか。
 - 姫路であれば、64社あるのですぐに対応できる。HPには掲載されているが、古い情報のため、新しい名簿で協力できる。メールで発信しておくことができる。
 - メールで回答いただければありがたい。
 - 府政環境は、姫路だけではなく、神戸、尼崎という広域で兵庫県下全域になる。
 - 回収率を考えるとご協力をお願いしたい。
 - 兵庫県全域になると300社を超える。

議題等

→神戸、姫路の順で企業数がある。
→回収率を上げるという意味では、回答数が低い場合は、メールで再配信等をして回収率を上げることができる。
→姫路であれば、名簿内容は最新のものになっているが、他の地域は分からない。姫路は事務局から連絡がくるということで情報を流して対応できるようにしておく。等

・記述式についてどうか。選択式がよいのか。

→一般的でどこでも通用する汎用性の高いものを作り上げるとあるが、記述式になるとまとめ上げるのがかなり大変なことになるがどうか。数の統計は比較的容易になるが、記述式になると分かり易いが分類が大変と思う。

→記述式の整理は分類して整理するため、選択式より作業量は多くなる。報告書は全ての回答を掲載するが、ガイドラインは全てではなく、選定して掲載する。

→文章で出てくるのがよりリアルに出てくると思っている。他県でできるように汎用性の高いものを作るには、本当の意見が出てくるのが記述式と思う。

→測量においては、「5・6」の受け入れたことが無い部類になると思う。しかし、毎年コンスタントにインターンシップの申し入れがあるのであれば、体制に対する投資は可能だが、たまたま希望者がいるからとの理由だけで、申し入れがある年と無い年でも対応してほしいということであれば難しい。受け入れの人数やレベルについても検討しなければならない。

→他県において、インターンシップを企業へお願いすると、どうしても企業は1～2人の新入社員を希望してしまう。

→ベースの意見ではある。

→毎年インターンシップに来るのであれば割ける時間も作れる。企業規模が大きければ人を用意することもできるが、小さな規模になれば難しいと思う。インターンシップの根本的な部分を話して申し訳ないと思う、アンケートを読み続けていくとこのような考え方になってしまう。

→「5・6」をアンケートのはじめに持って行った方がよいと思う。インターンシップを受け入れられた企業は多いのか。

→受け入れる気持ちはあるのか。という項目を入れた方がよい。受け入れる気持ちはあるが、人数を含めた体制的に問題があるのかなど何が原因で受け入れることができないのか書いてもらうようにした方がよいと思う。

→Yes、Noからはじまって書いてもらう方が、回答し易く返信してくれると思う。

→Yesの企業は他のも書いてくれると思う。

→Yes、Noで入り、次に「5・6」の部分の前にもってくる。

→インターンシップを受け入れている企業やこれから受け入れたいと思っている企業は書いてくれると思う。

<p>議題等</p>	<p>→受け入れ易くなるような教育プログラムの内容を知りたいと思っているかもしれないため、その問いかけもあってもよいと思う。</p> <p>→求人の一つの方法としてインターンシップを捉えている企業の部分も知りたいと思う。</p> <p>→地域的に求人の方向が色濃くでているところもある。そういう地域であれば、企業がインターンシップを純粋な勉強の一環として考えてくれない現状もあると思う。</p> <p>→純粋に勉学の中の一部としてインターンシップをプログラムに入れているが、学生が紐付きとして捉えられると困る。しかし、どこかにそのような考えは少なからずあると思う。</p> <p>→気持ち的には、学習の一環として捉えているものの、本音と建前があると思う。</p> <p>→全くないという企業はないと思う。こういうところがインターンシップの難しいところである。</p> <p>→報告で企業のメリットに色々書かれていたことを考えると、このようなアンケートを回答するにつれ、受け入れないと考えていた企業が最後には受け入れる気持ちに変わる可能性はあると思う。</p> <p>→地域によっては1～2時間など社会科見学的なものもありになるのか。数日単位ではないインターンシップも考えられるが。</p> <p>→それもありと思う。普通の仕事姿を見せるのもできると思う。建築というものをはじめから学ばせることにはならないが、企業側も受け入れ易いと思う。</p> <p>→魅力発信の方法で参加させる。実習に拘らず、企業負担を減らす方法の一つとして提示するのもありと思うが。</p> <p>→施工においては、企業単体で1日行ってインターンシップというところは多い。本来のデュアル教育という枠においては違うと思う。デュアルの位置付けでは2～3時間は違う。当校前提としては、通年のプログラムの中に入れているため、学生が居る限りインターンシップは続ける。ただし、他の学校ではインターンシップが単位として認定するプログラムになるのかとなる。</p> <p>→アンケートを含めた学校制度の認定になり、単位認定は根本的な部分になる。</p> <p>→半年間となると授業中の期間もあるが企業等の都合によりインターンシップを組み込めない部分も出て来るのか。例えば、学生が企業へ訪問するので授業を休ませてくださいとなるのが生じる場合もあると思うが。</p> <p>→インターンシップという授業の中で行かせる。</p> <p>→相手方の都合による、例えば時間が遅いがどうかなど。</p> <p>→学校と企業との連携ができていないことになる。普通は受ける授業は受けなければならない。</p> <p>→企業から急に振られることはないのか。学生が就職先として考えている企業からの申し出によりインターンシップとして行っている場合もある。</p>
------------	--

議題等

→就職先からの申し出ではインターンシップとは異なるので、その場合には公欠の届書を提出させる。

→専門学校は大学とは異なり、そのような事例はかなり少ないと思う。

・項目追加と順番を入れ替える、インターンシップの説明文を設ける。配布について測量は協力できるのか。

→広報に連絡を入れてもらえばよい。兵庫県で136件、姫路は18社程度。

→企業調査アンケートについて、名簿のご協力はできるのか。

→協会としても協力はできるが、目的などをはっきりとすること。その際に、アンケートを実施するその趣旨説明を書面で提出することが必要である。

→事務局と話を進めていきたいので、ご協力お願いします。

→了承した。

→返信用封筒を同封し、いただいた名簿の企業へ発送して進める。次回10月の会議に集計結果が出せるように進める。等

(2) フィードバックシートについて

推進委員会の意見を反映し、たたき台を作成した。配布資料：フィードバックシート(案)が説明を含めて読み上げられた。

・「知識」・「技術・技能」・「興味・関心・意欲・態度」分けて体験したことでどのように変わったかを記入するように変えた。推進委員会で提出した際の「既習の学習内容・実習で学んだこと・今後、学びたいこと」の部分で「これまでの自分・実習で体験したこと・現在の自分」に変更、記述例を追記した。等

ここまでの中で意見を伺いたい。

【意見交換】

・推進委員会で発言された意見を反映した。

→建築設計の試験は、法規的なもの、施工的なもの、構造的なもの、計画的なもの大きく分けて4つある。推進委員会会議での意見としては、それぞれに対することを学んだ体験について書かせるのはどうか。ということであった。分野化させて行うことが妥当なものか、このシートのように知識と技術といった分け方で行った方がよいのか協議いただきたい。

→「知識」・「技術・技能」・「興味・関心・意欲・態度」の3つは受け入れ先企業に、この3つの内容を学生に体験させるようにプログラムを作成してほしいと学校側から提示するものなのか。

→受け入れ先企業は、従来通りのプログラムで実施してもらい、学生が振り替えた際にどのような体験をしたかを見るために書くものである。

→受け入れ先企業によっては、内容が偏るものになるということ。

→そういうことになる。プログラムの内容によっても異なる。

議題等

- それで構わない。
- 学生が体験したことを自分の頭の中で整理すること、学校の教員は学生がどのような学びや体験をしたかが分かるツールの一つである。このシートによってインターンシップの内容に影響するものではないと考えている。
- 「知識」・「技術・技能」・「興味・関心・意欲・態度」の3つについて記入欄はそれぞれ別を書くことについて、設計・施工・測量といったそれぞれの職種によって学ぶ・体験することは異なるため、全てに当て嵌まらない書き方でよいと思う。ただし、記入例が施工になっているため、設計用のものを作成した方がよい。
- 要知識になるため、推進委員会会議での意見を網羅していると思われる。
- 法規か計画的な要素を書かせる欄があればよいと思う。何を意識して学んできたのか、教えてもらったものが何に分類されていると思ったことを書かせる欄があればよいと思う。何を学んだのかを明確化させたい。模型作りは知識ではなく、技術・技能に値するなど。そのためには、選択する要素を抽出したものが必要と思う。
- 「知識」・「技術・技能」における分類表なのか。
- 3つに共通することという中で、学生に対して選択肢を設けると自分が何を学んだのかということに対して書けると思う。
- 測量は一人でできないものが多いため、チームワークが入ると思う。
- 学校に無いG A Dやドローン、測量機械といった色々な機械の経験に対しても対応できるものがよい。
また、施工の施工を管理することと設計の施工を監理することは全く異なる。ずっと見るということは監理の意味が学生に分かると思われる。そういった部分をどう感じたのかにも対応できるシートにできるのが必要である。
- 経験のない学生にとって選択肢があればよいと思う。例えば、測量実習にしてもはじめて扱う機械について学生自身の感想などが書かれているとどういった視点を持って実習に取り組んでいたが明確になると思う。
- 学習進退の受け手のフィードバックで、例えば模型一つを例にしても、この形は自分の思いが書ける形になっていると思うので、この形はよいと思う。
- 記入例をポジティブな内容で作成した方がよい。
- 例えば、記入例として「これまでの自分：学校ではJ W-C A Dの授業を受けた」「実習で体験したこと：O U T C A D操作をした」「現在の自分：企業によってはC A Dが違うのもっと勉強していきたい」といった感じのものではどうか。
- そこまで多くのC A Dを学ぶ必要があるのか。
- 学校としては、なるべく多くのC A Dに触れるようにはしておきたい。触れる程度でもできればその分企業負担は減る。
学生にとっても色々な体験をすることにより、刺激になるし意欲が高まるとして

議題等

いる。

→記入例をこの方向で進める。分類の観点も入れていく「法規、施工、構造、計画、機械操作」等を知識・技術・技能・興味・関心・意欲の下の部分に入れる。自分がどの学習をしたのかを書けるようにしていく。等

(3)企業内実習・参加者情報カードについて

推進委員会会議から興味・特技などを入れた方がよいとの意見を反映した。配布資料：企業内実習・参加者情報カード(案)が説明を含めて読み上げられた。

ここまでの中で意見を伺いたい。

【意見交換】

→8-②の高所の部分は関係ない。

→「高所の作業は～」という書き方ではなく、「高い所は大丈夫ですか。」という書き方が妥当と思う。

→設計においては、作業ではないため表現が妥当ではない、ご指摘のように変更した方がよい。

→他に、メールアドレスを入れるという話があったのではないのか。

→修正と追加をする。

→5はよい項目と思う。学生に何がしたいのかという問いになっているところが聞けるところがよいと思う。

→8-③のコンタクトレンズは必要か。

→推進委員会会議ででてきた意見であるが、設計には必要でないのであれば削除する。

→必要ないと思う。コンタクトでも眼鏡でも実習には支障はない。

→利き手についてはどうか。学校ではどのように教えているのか。

→学生にはマウス操作を教えるのに、右手に強制して教えている。

→そうすると、設計では利き手の部分は必要ない。ただ、施工やマイスターにおいては必要と思われる。

→施工などと共通しなくてよいのか。

→共通しなくてもよい、逆に設計で何が必要なのかを入れてほしい。

→持病や健康状態は欠かせない。

→提案されている8のほとんど項目は削除されると思う。

→ご意見を参考に修正する。等

議題等

(4)アクティブラーニング・プロセスイメージについて

どのような順序で動機付けから振り返りまでインターンシップを行うのかということを示している。主に、学校へ提案する目的のものであるなどを含め、配布資料:アクティブラーニング・プロセスイメージの説明が行われた。

ここまでの中でお気づきの点等があれば意見を伺いたい。

【意見交換】

・明確に提示している内容と思う。

→学生自身が分かっていると思って参加していることに対して、実際の現場で使うにはさらに深い知識が必要であるという場面を作る。もっと学びたい、現場に行って見たいというイメージで書いている。

→現状、当校は1年生で行くことが多い、学習知識のインプットを入れなくて実習に行かせているが、実習から戻った際に学校内の教育とつながる形で授業に活用させていただいている。

例えば、「実習に行ってCADのことをどう思ったのか。」と学生に聞くと学生は「CADは必要である。」と答える。というように学ぶ順序は逆になるが、インターンシップを通して必要性を感じてくれている。このシートの部分は行く前の動機付けなので、今の話の前の部分と思われる。

→振り返りまでのスパンはどの程度なのか。

→当校の場合、設計であれば3カ月程度である。

→その期間に何回かディスカッションし、最終結論的に内面化を図るということになると思われるが、内面化を図るとはどのようなことを意味するのか。

→学生の頭の中に残り、学生自身が使える知識として身に付くことである。

→この期間で十分なのか。

→平面、立面図、模型と従来しているが、1年生では難しいため、平面図をやらせている。カットして模型までは難しい。専門性を高めるというよりも雰囲気を感じてもらえる方である。設計は現場実習とは異なると思われる。

→インターンシップで設計の専門職を高めるところまではいかない。設計事務所はどういう仕事をしているのかの雰囲気を感じるレベルまでしかできない。

→短い間でも見学に来るだけでも雰囲気を感じることができるので、実習に拘らなくても構わないと思う。等

3. 事務連絡

今回の会議は、10月11日(木)17:30～に開催。等

議題等

【会議風景】



本日はありがとうございました。引き続き、よろしくお願いいたします。との言葉で会議散会となった。

以上

会議議事録

事業名	平成30年度「専修学校による地域産業中核的人材養成事業」 建設分野における産学協働教育体制のためのガイドライン作成事業
代表校	専門学校日本工科大学校
会議名	設計部会会議(第2回)
開催日時	平成30年10月11日(木) 17:30~19:30(2h)
場所	専門学校日本工科大学校 会議室
出席者	①委員 ・内海秀明、柏本 保、片山俊行、所 達弘、森本徹之、吉川隆治、鷲尾和正(計7名) ③事務局 ・古河邦彦(計1名) (参加者合計8名)
議題等	会議の目的、次第、内容等を記載(必要に応じて別紙等で補足) 【会議目的】 ・設計部門インターンシップアンケート回答結果をもとに、全国の専門学校が実施するための参考となるものであるのかの確認と検討を目的とした会議を開催した。 【次第】 日時:平成30年10月11日(木)17:30~19:30 会場:専門学校日本工科大学校 会議室 1.開 会 2.議 事 (1)アンケート結果報告 (2)その他 3.事務連絡 4.閉 会 <配布資料> ・議事次第 ・アンケート結果 4.閉 会

議題等

【内容】

1. 開 会…

本日の会議が、本年度設計部会会議の最終会議となります。府政環境と兵庫県建築事務所協会のご協力をいただき、大変助かりました。ありがとうございます。本日はアンケート結果に絞り、追加することや分類等について皆様のご意見を戴きながら進めていきます。よろしく願いいたします。との事業責任者の片山校長の言葉で会議開催となった。

2. 議 事…

(1) アンケート調査集計結果について、配布資料のアンケート結果が読み上げられた。回答は12社。

<受け入れについて>

・受け入れる16.7%、条件によって受け入れる66.6%、受け入れない16.7%。等

<条件によって受け入れるについて>

・時期的要因：業務状況(繁忙期等)。学生の資質等の要因：健康で真面目の上建築が好き、本人の希望職種と一致している、J W-C A Dが使える。実習内容の要因：C A Dが他社にない特殊であるため、覚えるのに時間がかかる。等

<受け入れないについて>

・受け入れ体制の問題：指導するスタッフが居ないため、受け入れ体制が整っていない。等

<受け入れ企業の判断基準について>

・学生の資質・態度：やる気のある学生、施工管理に興味のある学生、ある程度の社会性(マナー)を身に付けている。等

<受け入れ人数について>

・1人50%、1～2人37.5%、2～3人12.5%。等

<教育プログラムの考え方について>

・業務全般・業務の実態・業務の繋がりを理解するプログラム：様々な種類の実務体験、設計・C A D・現場見学を取り入れる、図面の作成手順、作成要領、現場管理全般の業務状況の理解を図る、図面・模型・現場とのつながりの理解を図る。職業を実感させるプログラム：建てるプロセスを見て実感する活動を構成する、設計を行う上で多角的な検討の難しさがわかる活動を構成する。創意工夫する活動を構成するプログラム：事前に学生の能力にあわせる、ある敷地を想定し、家族構成などの課題を与え、その敷地に住宅の平面図、立面図を学生が考え、C A Dで図面作成し、模型を製作するカリキュラムを実施している。等

議題等

<教育プログラムの重視することについて>

・実習生の希望：学校、学生が実習に求めていること。安全指導。職種の特徴を実感させる：進行中の現場を見学することにより、設計図の線の大切さを学ぶ、意匠視点の設計のみならず、構造・設備担当との設計の打ち合わせを実際に行う、設計業務の流れを勉強してもらい、手を書くこと描くこと。学生との対話：学生とのコミュニケーションの大切さ。実習生の態度：本人の努力している姿。等

<効果的なプログラムについて>

・現場体験や実務的な体験：作図や現場管理などの実務的な業務体験、進行中の建設現場や建築現場の見学。調査や資料作成：設計する前にヒューマンスケール資料としてまとめる、民家調査：記録や報告書をまとめる。創作活動：手近にあるもので工夫し、表現したい形を立体で作ること。設計事務所の仕事の流れを体験するプログラム。等

<教育プログラムの見直し内容について>

・実習生の希望と違った業務。1種類だけの体験：模型作りなど1種類だけの体験。コミュニケーションの時間がとれないプログラム：ほとんどが一人作業となるプログラム。手伝い的なプログラム：実務の手伝いだけをさせるプログラム。等

ここまでの中でご意見を伺いたい。

【意見交換】

- ・Ⅲ-2は、新たに受け入れる企業に対して参考となる回答。
- ・Ⅲ-1-ア-①の回答の中で「管理」とあるが、設計事務所の場合「監理」となる。
→確認はしていたが、回答に設計事務所ではない企業も入っている。再度確認していく。
- ・Ⅲ-2-イ-②の安全指導とあるが、設計事務所では関係ないと思う。施工会社の回答が入っているのではないか。
→確認する。
- ・Ⅲ-2-ウ-②の中に民間調査とあるが、民間調査はかなり特殊な回答である。コンサル業界に位置するのではないのか、設計事務所からはこのような言葉は出てこない。
→増改築を請負う設計事務所もあると思うので、そこから出てきたのではないのか。
→民家ではない、テナントの場合もあるため言葉を変更した方がよい。
→民家調査と限定するよりも既存建物調査がよいのではないのか。
- ・Ⅲ-2-エ-④の回答は、インターンシップがアルバイト感覚で受け入れる事務所もあることをいっている。
→学生目線でいえばよいであろうが、全てが有償となるのも困る。

会議議事録

議題等	<p>→遅くまでやらせる事務所もある。ただし、学生から区切りがつくところまでという申し出に対しての30分程度の延長は別である。</p> <ul style="list-style-type: none">・Ⅲ-2-エ-①の実習生の希望しない業務は実施しないことについては、違うような気がする。 <p>否定するものではなく捉え方の一つの回答ではあるが、インターンシップを通して様々な実務を学生には色々なことを経験してほしいと思っている。</p> <p>→学生が望むものだけを実施すれば、それ以上の様々なことが分からない。就職のミスマッチを起こす可能性も出てくる。</p> <p>→学生に甘えがでてくると思われる。実際の仕事を知ってもらうためのインターンシップであると考える。</p> <p>→実際には難しいところである。人がほしいという想いと結びつくところのような回答になっている。等</p> <p><受け入れするにあたり、企業内の体制について></p> <ul style="list-style-type: none">・物的環境の整備：実習生用のデスクの設置とパソコンの用意。人的環境の整備：実習生が気軽に話せる若い人材の設置、必要な指導を簡単明瞭にできる人材の設置、担当者の設置、継続的に作業のアドバイススタッフの設置、社員全員で受け入れる体制、指導する社員に業務の余裕を作ること、人的な対応計画の作成。等 <p><受け入れ体制の工夫について></p> <ul style="list-style-type: none">・人的な工夫：学生と近い社員による指導、来る学生の把握することによる受け入れの割り振り。雰囲気づくりの工夫：コミュニケーションが取りやすい雰囲気づくり、興味を持って集中できる雰囲気づくり。全社員での受け入れ工夫。等 <p><学校との連携のポイントについて></p> <ul style="list-style-type: none">・実習生の学修の習熟度：学生の習熟のタイミングがポイントとなる。継続性：継続して連携していくことがポイント、目的の共有：学校側の何を学ばせたいのかと学生側の何を学びたいのかを明確に共有すること、実習後の振り返り・話し合い。学校の主体的な姿勢：企業任せにして負担をかけない。等 <p><実習中の学校側の良い取り組みについて></p> <ul style="list-style-type: none">・巡回指導：実習中に企業訪問し、学生の様子や企業の指導者、学生からの感想を聞くこと。単位認定：実習(インターンシップ)を単位として認定するシステム。礼儀作法等の事前指導。等 <p><実習中に学校側に取組んでほしいことについて></p> <ul style="list-style-type: none">・実習中の個別指導：実習中の中での学生への指導と確認。実習中の受け入れ企業との話し合い：実習を受け入れている企業とのコミュニケーションをとること。等
-----	--

議題等

<はじめて受け入れ企業へのアドバイスについて>

- ・実習生とのコミュニケーション：頻繁に学生に声を掛けること。指導カリキュラムの作成：事前に指導カリキュラムを作成する、手伝いや補助で終わらせないこと。アルバイトとの勘違い。学校情報の入手：学校の校風や教育方針を事前に知っておくべき。気負いすぎない：設計事務所としては、雰囲気を感じとってもらう程度と考えた方がよい。無理をして受け入れない：人的・時間的要因で困難な場合は受け入れを断ることも大事なこと。等

ここまでの中でご意見を伺いたい。

【意見交換】

- ・Ⅲ-3-ア-②の社員全員で受け入れる体制が必要とあるが、担当者以外に気がついた社員がアドバイスで声を掛けることはあるが、社員全員が実習期間気にして対応するとなると現実的には難しい。

- ・Ⅲ-4-イ-②がデュアルの本質であると思う。企業にお願いしている教育が単位認定される。この上に企業が単位を評価するシステムが必要と思う。現在は学校に持ち帰って教員が採点している。

→単位認定していない学校はあるのか。学校側が絡んでいないのか。

→学校が絡んでいないところは、単位認定していないと思う。また、個人的に行くオープンデスクも同様と思う。

- ・Ⅲ-4-イ-①は、当校教員が心掛けている巡回指導である。

→よい取り組みと思う。等

【以下、その他意見交換】

- ・設計事務所に伺うには学生に多少の考える力をつけさせる。写図だけではいけないと考えている。

→先ず写図から入り、ある段階になると自分で考える力が必要となる。考える力を付けることは大事なことである。

→インターンシップは、学生に考える必要性を導き出させていただいている。

→大学では3回生でやっと建築の経営を知ったような感じである。

→専門学校は専門教育に特化しているため、その点では大学とは異なる良さと思う。等

<はじめて取組む学校へのアドバイスについて>

- ・業界団体との連携。求人企業に絞って開拓：学校に求人を出している企業は受け入れる可能性が高い。卒業生の就職先に絞って開拓：卒業生のいる企業へのアプローチは受け入れる可能性が高い。就職につながる可能性を持たせる。実際に企業へ訪問：企業の雰囲気など、実習に適した受け入れ企業を選定する。等

議題等

<はじめて取組む学校側への留意について>

・保険への加入：実習期間内の保険体制をとる。実習人数の調整：企業規模を踏まえた実習参加人数を調整する。受け入れ時期の調整：企業が選べるように複数提示すること。学生の意欲の確認：意欲を持った学生を選定すること。学修の習熟度の配慮：ある程度学修が進んだ学生を参加させる。学校情報の伝達。学習目的の説明。実習計画を企業と協議：学校の計画をなるべく受け入れ企業に負担をかけないように話し合う。等

<インターンシップ以外に学校と連携した取り組みについて>

・建築のワークショップを通じた学生との交流。等

<インターンシップ以外に学校と連携したい取り組みについて>

・建築のワークショップ、調査、まちづくり。
・意見交換会
・設計事務所の出前授業。等

<さらに、お気づきの点の指摘について>

・ものづくりの楽しさを学ぶ機会を多く作る。
・実習は新人教育に近い取り組みであるため、ある程度覚悟をもって参加することを学生に指導してもらいたい。
・企業から学べることを学生が認識して参加すると、よりリアルな実務体験となる。インターンシップは学生の若さが事務所スタッフに元気を与えるこのでもある。
・授業の一環としてインターンシップを実施することもよいと思う。等
最後の部分になるが、ここまでの中でご意見を伺いたい。

【意見交換】

・なかなか良い意見を書いていると思う。各事務所からの意見にそぐわない部分は指摘していきたい。
・Ⅲ-6-イ-①の保険の加入は設計事務所では考えられない、工務店からの回答なのか。
→通学の範囲も考えれば必要と考えている。
・Ⅳ-2-③は、他の専門学校から設計事務所が取り組んでいる作品などについて出前授業をしていただけるかという声があり、このような取り組みもありと思い記入した。
→色々な出身の方に講師に来てほしいとの依頼があった。
→神戸市が数年前からイベントの一環としてしたものに対して中学生に教えたことがある。小中学生に設計の面白さを教えるのは難しい。校長からは、生徒は興味なく聞いていると感じられるが、感想を書かせると立派なことを書く。その中に将来建築家になると書いてあった。先生が教える違った方向(模型を見せる等)で教えることも必要と感じた。ただ、継続的に行うのは難しい。

<p>議題等</p>	<p>→設計事務所の業務や建築士の資質について模型を見せながら教えると興味・関心を持つかもしれない。</p> <p>→このような取り組みは大事になると思う。</p> <p>→測量も同じように小学校へ出前授業的なものを行っている。</p> <p>・IV-3-②に書かれていることは、ニュアンスが少し違っている。ここに就職する気はないという気持ちで実習に来てほしくない。とのことで認識の違いもあることを含めた本来の考え方が読み上げられた。</p> <p>→色々な作業の中を経験することについて、お手伝いという部分はある。学校側と企業側がよく話し合うことが必要である。</p> <p>→受け入れ企業側が受け入れ前に学生に課題を出し提出させ、受け入れる際に学生を振り分けることをしている。</p> <p>→入社させる方法の一つである。</p> <p>→学生にとっては認められてうれしい。良し悪しは別として学校を上手くコントロールしているところもある。</p> <p>→就職試験ではないこともあり、企業側の姿勢としては覚悟が見られないのであまりよくないと思う。</p> <p>→同じ設計でも設計事務所と企業とでは覚悟が違う。</p> <p>→色々なご指摘の部分について修正・まとめる。等</p> <p>【その他意見交換】</p> <p>・学生はカレンダー通りの休日がある企業を選ぶ。また、インターンシップに来てもらうにしても平日となる。休日に行くとブラック企業と言われる。</p> <p>→業界的に工期の問題もあるため、実態としては難しい問題である。</p> <p>→国的には土日休みを推進しているが、実際には打ち合わせ等を考えると必要に応じて土日出勤はやむを得ない部分もある。</p> <p>→どこかで休日でも出勤しなければいけない部分はあるが、基本的には休むようにしている。若手は決められない。</p> <p>→企業から言われるのではなく、自分で休日出勤しないといけないと意識はあると思う。</p> <p>→官庁関係は緊張感で伝わるが、民間はそうではない。等</p> <p>3. 事務連絡</p> <p>・11月22日(木)14:30～フォーラムの開催。</p> <p>・17:30～第2回推進委員会会議を開催。推進委員会会議では実習風景の動画を見ていただき、意見を伺うという説明が行われた。等</p>
------------	--

【会議風景】



本日はありがとうございました。本年度の設計部会会議は本日で終了します。11月の推進委員会会議が委員の皆様の最後の会議となります。よろしくお願いいたします。との言葉で会議散会となった。

以上

会議議事録

事業名	平成30年度「専修学校による地域産業中核的人材養成事業」 建設分野における産学協働教育体制のためのガイドライン作成事業
代表校	専門学校日本工科大学校
会議名	施工部会会議(第1回)
開催日時	平成30年9月21日(金) 17:30~19:30(2h)
場所	専門学校日本工科大学校 会議室
出席者	①委員 ・片山俊行、田中政人、中農一也、難波利行、増田和仁、毛利幸弘、森本徹之、吉川隆治 (計8名) ③事務局 ・古河邦彦(計1名) (参加者合計9名)
議題等	会議の目的、次第、内容等を記載(必要に応じて別紙等で補足) 【会議目的】 ・専修学校版デュアル教育ガイドライン作成に向けた企業アンケート、参加者情報カード、フィードバックシートの内容確認と意見交換等を目的とした会議を開催した。 【次第】 日時:平成30年9月21日(金)17:30~19:30 会場:専門学校日本工科大学校 会議室 1.開会 2.議事 (1)受入企業「受入・指導のポイント」等のアンケート調査について ・アンケート内容 ・アンケート配布先 (2)企業内実習・参加者情報カードについて (3)フィードバックシートについて 3.事務連絡 4.閉会 <配布資料> ・議事次第 ・アンケート調査(案) ・企業内実習・参加者情報カード(案) ・フィードバックシート(案)

議題等

【内容】

1. 開 会…

本日は、アンケートを中心に協議をいただきたいと思います。よろしく願います。と事業責任者の片山校長の言葉で第1回目の会議開催となった。

2. 議 事…

(1) 受入企業「受入・指導のポイント」等のアンケート調査について

本アンケートは、企業に配布し、企業独自の工夫や学校が参考となる内容を資料としてまとめる。

配布資料アンケート調査(案)の内容が読み上げられた。

企業アンケートは記述式でお尋ねする。兵庫県下の企業に協会を經由して配布し、書かれている回答をまとめていきたい。

また、お配りしているアンケート(案)は、設計部会で協議したものを参考とし反映している。

【意見交換】

記述式だと、まだインターンシップを受け入れたことがない企業は書くことができないと思うがどうか。慣れている企業は書くことができると思う。

→配布する先の基準が難しい。2～3人の少人数は無理と考えられる。

→I-2の記載欄に、「会社は受け入れる体制が無い」と回答いただければ終了となる。

→姫路市内において、対象企業は170社ほどある。

→兵庫県下はどうか。

→姫路が一番多い、神戸でも100～120社程度である。その他は20社程度である。

→回収率は50%あれば良いと思う。

→1～2ページでほとんどの企業は終了となる。姫路で見ると受入企業は限られている。

→就職のためのインターンシップという捉え方をされているのは困るので、それを確認するためでもある。

→このアンケートは、これからインターンシップをはじめ学校が企業を探せるヒントとなる使い方もできる資料作りのためにも行う。

→I-1の問いかけからも分かる。

→条件面を聞き出す根拠は何か。

→就職希望者であれば受け入れるなど、就職のためのインターンシップという捉え方をされて受け入れるという企業を避けるため、また、インターンシップは教育の一環であり、就職のためではないことを理解してもらうため。

議題等

- 企業としては入社してほしいと必ず思っていることである。
- 学校が認識すべきことのひとつであると思う。
- 内容は特に無いが、インターンシップという言葉を知らない業者もある。最初の定義に、インターンシップのやり方を説明するものが必要である。浸透していないところには、実績例(規模、時期、人数等)を示していくことが最初の最も重要なことであると思う。
- アンケートの冒頭に説明文が入っているが。
- 詳細なことから入ってもインターンシップという言葉も知らない、経験したこともない企業にとっては理解できない、もっとイメージできるようにインターンシップとはこのようなものといったものを紹介できるとよい。
- 設計と建設、造園、マイスターの捉え方が違ってくる。
- Ⅲ-1-イの受け入れ人数も職種によって異なるので、まとめ方も職種ごとにまとめる。
- 業界によって捉え方が異なるので、実績を紹介できるとよいと思う。
- 写真は分かるか。
- これまでの実績の写真をピックアップしてまとめ、パンフレットのようにすればよいと思う。
- 内容は特に変更なし。但し、インターンシップがどのようなものかの説明書を別途作成し、アンケートと同封して送付するようにする。等
- ・調査先については、施工関係の企業へ配布し調査していきたい。建設業協会会員用の連絡メールに入れて送付したい。郵送する手間を省きたいが、可能であるか。
 - 兵庫県下か。
 - 兵庫県下でできればお願いしたいがどうか。
 - かなり難しい。許可を得るには事前資料の作成が多い。
 - 年内であれば、造園組合は依頼書を送っていただければ協力できる。また、姫路造園建設業協会は資料添付で許可をとる協力はできるので、資料をお願いしたい。但し、アンケートは郵送でお願いしたい。
 - 兵庫県下がよいのか、姫路市に限定した方がよいのか。
 - 知り合いが限られてくる。遠方になれば難しい。
 - 姫路に企業が多いので地域を絞ってもよいと思う。
 - 姫路市内企業176社程度であるが、発送先の協力はできる。
 - 建設業は発送先のご協力をいただいて10月には郵送する手配の方向性で進める。

議題等

(2)企業内実習・参加者情報カードについて

配布資料の企業内実習・参加者情報カード(案)が読み上げられた。

推進委員会会議の意見を反映し、連絡先に本人の携帯とE-mailと4性格、6得意な専門教科・仕事・技術、7趣味・特技、8実習する上での配慮事項等の部分を追加している。これらについてご意見をお聞きしたい。

【意見交換】

8-②高所の作業は得意ですか。とあるが、高所の高さの限定がほしい。墜落・転落で亡くなられた方が一番多いのは5m以上10m未満である。どの程度の高所なのか2mなのか5m以上なのか。

→私どもの業界では2m以上で作業している人としていない人がいるが、脚立は10尺(=3m程度)~15尺までであるが、2m以上で作業していない人は、10尺(=3m程度)以上を高所と認識している。

→本来であれば、10尺(=3m程度)になると手すりが必要で、非常に困難で無理なようであれば安全帯を使用するとなっている。この高所が漠然としている。

→得意と苦手は何かが必要か。

→高い所が苦手な学生がいるので入れている。

→実際、どの程度の高さがダメなのか、2mは大丈夫で、5m~10mはダメという場合であれば分かる。安易な表現は

→高所が専門用語になっているので誤解を招くことになっている。

→得意という表現を除けばよいと思う。

→高い所の作業は苦手ですか。という表現に変更すればよいと思う。

→苦手、苦手でない

→作成年月日を入れた方がよい。

→年月日の横にNo.を入れてもよい。

→学科は必要か。

→このカードは学校用なのか、企業用なのか。

→受け入れ先企業用のカードである。

→学年学科を入れた方がよい。

→性別(男・女)は難しいので、入れない。

→8の項目について検討いただきたい。

→左利きがいると左利き用の道具を用意する必要がある。

→高所以外は特になし。等

(3)フィードバックシートについて

配布資料のフィードバックシート(案)の記入例と記入シートの説明が行われた。施工の場合、どのような内容がふさわしいのかご意見をお聞きしたい。

議題等

【意見交換】

- ・3つに分けているので、難しいと思う。分けて書かせるのよりも、実習で体験したことを書かせるのがよいと思う。
- 学生にとっては難しいと思う。
- 分けるので難しい、実習を通してどれが本当の知識なのか分からないと思う。自分が体験して思ったこと、感じたことなどを書く方が学生にとっては書き易いと思う。
- 学生に好きなように書かせることがよいと思う。
- 「知識」、「技術・技能」、「興味・関心・意欲・態度」の視点で自由に書くということか。
- 3つに関して学生が認識しているかという難しさを言われている。最終的にジャッジするのは教員側であるのがよいと思う。但し、実務的に考えると学生に3枚書かせるのは厳しいと思う。
- なぜ分けるようにしたのか。
- 分類した方がよいと推進委員会会議からの意見を反映して作成した。自分がどうであったかを振り返ることができればよい。
- 3つを1つした方がよいと思う。説明用の付属用紙が付いていれば大丈夫と思う。
- 「知識」と「技術」を分けることが難しい。「知識の技術」や「技術の知識」がある。
- 「知識」、「技術」を一緒にしてもかまわない、一般的に分類しているので、その点も踏まえて意見をお聞きたい。
- 学生が書ける分だけした方がよい。
- 漏らさず記入と書かれているが、全てを記入しなければならないのか。
- 全て書くことは困難である。
- 書く前に学生は絶対聞いてくるので、こちら側がなぜ学生に書かせるのかの意味を理解していないといけない。例えば、型枠の実習について書くように指示すると8つは書いてくる。
- 全て書かせるということになると、体験したこと、印象に残ったことについて書かせる方向がよいと思う。
- 実習で特に印象に残った体験(=習得できたと思うもの)を書かせるという方向で学生に書かせる。
- 1枚にして1つの記入欄にして書かせるのがよいと思う。
- 前回と認識が変わったなどは難しいと思うがどうか。
- 参加の学生は、毎回実習中はスケッチをしているので書けると思う。
- 他に、日報も書いているのでできると思う。

議題等

- 書くことも訓練である。見る側(教員側)が、学生がどの程度理解できているのかが分かるものになる。
- このシートは、教育効果が見られることと、学生自身にも自分にどのような変化が起きたのか振り返ることができる資料になる。
- 学校がやるべきことを意識させるという資料にもなる。
- こちら側の考えと学生の考えを見るためにも一度実施しないと分からない部分はある。
- 項目変更を変更した方がよい。「学科」を追加して「学科・学年・氏名」、「主な活動」を「主な実習」に変更。
- 記入例に設計が入っているので、施工用に作成してほしい。設計・マイスターも同じようにするべきと思う。
- 職種ごとに作成する。等

3. 事務連絡

次回会議開催日時について、10月18日(木)17:00~19:00に変更とする。等

【会議風景】



本日の会議はこれで終了します。引き続き、よろしくお願いいたします。との言葉で会議散会となった。

以上

会議議事録

事業名	平成30年度「専修学校による地域産業中核の人材養成事業」 建設分野における産学協働教育体制のためのガイドライン作成事業
代表校	専門学校日本工科大学校
会議名	施工部会会議(第2回)
開催日時	平成30年10月18日(木) 17:00~19:00(2h)
場所	専門学校日本工科大学校 会議室
出席者	①委員 ・片山俊行、田中政人、中農一也、難波利行、増田和仁、毛利幸弘、森本徹之、吉川隆治 (計8名) ③事務局 ・古河邦彦(計1名) (参加者合計9名)
議題等	会議の目的、次第、内容等を記載(必要に応じて別紙等で補足) 【会議目的】 ・施工部門インターンシップアンケート回答結果をもとに、全国の専門学校が実施するための参考となるものであるのかの確認と検討を目的とした会議を開催した。 【次第】 日時:平成30年10月18日(木)17:00~19:00 会場:専門学校日本工科大学校 会議室 1.開会 2.議事 (1)アンケート結果報告 (2)その他 3.事務連絡 4.閉会 ＜配布資料＞ ・議事次第 ・アンケート結果

<p>議題等</p>	<p>【内容】</p> <p>1. 開 会…</p> <p>本日の会議が、本年度最終の会議となります。本日はアンケート結果に絞り、進めて行きます。よろしく願いいたします。との事業責任者の片山校長の言葉で会議開催となった。</p> <p>2. 議 事…</p> <p>(1) アンケート結果報告</p> <p>施工関係の姫路支部と造園関係180社に発送し、39社から回答が得られた。回答結果をガイドラインに反映していきます。他に意見があればお願いします。との言葉から配布資料のアンケート結果が読み上げられた。</p> <p><受入れについて></p> <ul style="list-style-type: none"> ・受入れる35.9%、条件によって受入れる53.8%、受入れない10.3%。等 <p><条件によって受入れることについて></p> <ul style="list-style-type: none"> ・時期・人数等の要因：業務の状況。実習内容の要因：施工管理は業務の80%。現場の要件：実習に適した現場や工程。通勤要件：現場・作業所まで学生自ら来ることができる。学校との関係の要件：卒業生の存在やこれまでの学校との付き合い。等 <p><受入れないについて></p> <ul style="list-style-type: none"> ・受け入れ態勢の問題：企業規模の問題等。職場の特殊性の問題：特殊工事等。等 <p><これまで受け入れたことについて></p> <ul style="list-style-type: none"> ・受け入れたことがある59%、受け入れたことがない49%。等 <p><受け入れたことがない理由について></p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校から依頼がなかった100%。等 <p><受入れる判断基準について></p> <ul style="list-style-type: none"> ・時期：繁忙期を避ける、現場の状況等。学生の興味・将来の目標：会社が行っている工事に興味があるか、建設業・施工管理に興味を持ち目指しているか等。学校との関係：学校と信頼関係があるか。安全の確保：安全面を考えた現場があるか。現場の場所：学校近くにあるか。等 <p><受入れ人数について></p> <ul style="list-style-type: none"> ・1人18.2%、2～3人47.8%、4人まで8.7%、5人まで17.4%、8人まで4.3%、10人まで4.3%。等
------------	--

議題等

＜教育プログラムの考え方について＞

・全員が作業参加できるプログラム：見学者がいないもの。危険性のないプログラム：安全第一の指導、実習生の体調配慮。授業と関連性のあるプログラム。職場のチームワークの大切さを感じるプログラム。社会の現実を体感するプログラム：学校と社会の違いが体験できるもの。実際の仕事を実感するプログラム：就職のミスマッチを防ぐもの、机上で学べないもの、施工管理業務や最新機器を使った技術体験を取り入れたもの、実際の作業工程に沿った体験。職業理解を図るプログラム：職業と企業を理解し、進路の参考となるもの、自社の仕事の理解ができるもの。本物に触れるプログラム：学生が職業として懂れるようなもの、作業補助ではなく、監督補助として参加するもの。実習内容が偏らないプログラム：内業と外業のバランスがとれなもの、可能な限り幅広い体験ができるもの、多様な現場が体験できるもの。現場の特色に応じたプログラム。等

ここまでの中で意見を伺いたい。

【意見交換】

- ・回答内容に良い内容が多くある。
 - 具体的に書いてある。難しい内容なのによく書いてもらっている。
 - 受入れている企業も23社もある。
 - 1日だけの現場見学のインターンシップもあると思う。
 - 見学的なものは除いてほしいと書いてアンケートに協力していただいている。
 - 名称がインターンシップとなっているため、見学的なものも入っていると思う。
 - インターンシップを受入れた担当が回答せず、総務などが回答していると見学会的な回答になってしまうのかもしれない。
- ・Ⅲ-1-イの回答内容であるが、企業が適切と考える受入れ人数が少ないと感じた。
 - 怪我のことを考えるとこの人数が妥当と考えているのではないのか。
 - このアンケート回答を参考とすると、少人数のグループで細分化されることが望ましいとなる。
 - 多くなると難しい。それに対しての道具を含めた体制を作る必要がある。指導者を1～2人増加させる必要がある。
 - マイスターは2人程度と制限されている。
 - 現場の工事が入っていると多人数でも可能だが、マイスターとゼネコンの考え方は異なる。
- ・I-3-②の回答においては、船上が作業場の所もある。常に船の上で作業しているため、1時間もすれば船酔いしてしまう。インターンシップを受け入れたくても過酷な状況であることから受け入れができない現場があるということも知っておくことが必要である。等

議題等

＜教育プログラムの重視することについて＞

・安全面と実習生の体調。実際の現場体験：現場の空気を体感させる、現場の高度な思考、技術、技能を実感させる。実習生の興味・関心：建設現場に関心をもってもらう、積極手に参加するカリキュラムの作成、施工管理・ものづくりの楽しさを実感してもらう。仕事の段取り。全体の流れ：工事工程や全体の流れを理解する体験。実務理解：職員の職務・実務の理解ができるカリキュラムの設定、建設業を的確に理解するカリキュラムの設定。仕事に対する姿勢。コミュニケーションの充実：意思伝達の重要性を理解できるようにする。事前準備：期間内にできる内容とポイントを準備する。等

＜効果的なプログラムについて＞

・事前指導：実習の前に企業の特徴、作業内容、安全教育、機械類の取り扱いなどの説明をすること。現場体験や実務的な体験：据付から高さを測る体験プログラム、VR（仮想現実）体験プログラム、測量実習プログラム、トランシットやレベルなどの現場管理作業プログラム、ドローン測量から解析までの作業体験プログラム、コンクリートの数量計算プログラム、鉄筋結束プログラム。様々な内容の仕事体験：ほぼ毎日違った体験プログラム。コミュニケーションの重視。建て方の見学：木造や鉄筋の建て方を見学するプログラム。仕事の流れの体験：合板製造から発注、現場周辺へのPR、設計現場作業と工事に係るすべてを流れとして指導するプログラム、準備段階から仕上げ（完成）までの流れを一貫して体験するプログラム。創造的な活動。等

＜教育プログラムの見直し内容について＞

・見学的なプログラム：現場パトロールを見るだけ、いくつかの現場を見学会のように体験するもの。ビジネスマナー研修：名刺交換など基本的なビジネスマナーを社会に出ると必要なものとして実施したが、学生は意欲的に取組まない。企業担当者の過干渉：企業の担当者が口出し過ぎると、実習生の自主性が抑制される。指導内容の量の多いプログラム：理解されないまま進んでいくから。単純作業：単純作業の繰り返しは、実習生の活動意欲を低下させ、結果、職業に対する魅力も失わせるため。等

＜受入れするにあたり、企業内の体制について＞

・人的環境の整備：学生をサポートする適当な人員の確保、余裕をもって指導できる体制の確立、若手の講習担当者の確保、複数の職員による対応体制の整備。現場の確保：適切な現場の確保、ある程度大きな現場を用意する。実習カリキュラムの設定定：実習生用の業務計画の作成。職員の理解：実習を受け入れることについて職員の理解を得ておくこと。安全面での配慮：安全確保のために活動場所や内容を検討する。等

＜受入れ体制の工夫について＞

・人的環境の工夫：適切な指導者の配置、若手職員にも担当させ、職員にも理解を深める、受入れる学生と年齢が近い社員を担当させる、専属職員を配置する。
現場設定の工夫：できる限り近くで交通機関が整っている現場の配置、工期・工程等

<p>議題等</p>	<p>を踏まえ、効果的に実習が行える作業所の確保。実習カリキュラムの工夫：飽きず、楽しく実習できるよう工夫した、現場と図面の両方の実習ができるよう工夫。コミュニケーションの工夫：疑問に思ったことをその場で質問できるような雰囲気づくり、社員が実習生に対して積極的に声掛けするように周知した。体験する仕事をストック：実習に使う仕事をためておくこと。等</p> <p>ここまでの中で意見を伺いたい。</p> <p>【意見交換】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Ⅲ-3-イ-⑥で各企業の担当者が思ったことであるが、「実習に使う仕事をためておくこと」とあるが、このようなことはしたことがない、マイスターであれば考えられると思う。 <ul style="list-style-type: none"> →受け入れ体制の段階であれば分かるが。 →普段の仕事の中で現場を用意するのは分かるが、わざわざ実習のために現場を用意することはない。ただ、施主の理解があればタイミング的に可能かもしれない。 →造園の6社ほど回答があり、採用している。 →ためておくという意味より、調整しておくではないのか。 ・Ⅲ-2-ウ-②の中のドローン測量とあるが、弊社ではドローンは現場撮影のみに使っているが、他ではどのように使っているのか。 <ul style="list-style-type: none"> →レーダー測量で使用している。中堅になるとドローン測量をしている。地幅など出て来るので、CADで長尺(拡大率/縮小率による尺度の変更)をかけてデータアップして無人重機にバックアップしていくなどになっている。 →インターンシップで学生に教えるような声も聞こえてくる。 →企業はICTを取り入れた実習を考えている。 →ドローン実習は、建築より土木よりになる。 →外壁タイルの白濁検査は、今までの打診検査から赤外線積んだドローンで行う検査をし、映像で出てくるようになってきている方法を導入している。高い建物になると足場の組み立ての経費から考えると、安価ではある。 →この学校の卒業生が弊社のドローン撮影担当である。 ・Ⅲ-2-ウ-②の中のVRはどのようなものなのか。 <ul style="list-style-type: none"> →VR(仮想現実)は映像を通してリアルに体験できるので、安全面だけでなく、いくつものパターンで体験させられるため、よいものとする。 ・プログラムは一つのメニューとしてのものではなく実習内容のことを書いているのだろうか。 <ul style="list-style-type: none"> →個々の企業の考え方を書いている。同一回答中にも入っている。 ・全体の流れの理解を重視されていると回答が来ているが、このことはどういう意味を持っていると思われるのか。 <ul style="list-style-type: none"> →企業としては、現場体験、擬似的体験をさせるということを伝える表現方法の一
------------	--

議題等

つとして、このように施工全体の流れを書く。施工の場合は1週間程度の流れの内容を書くといっても一つひとつの工程に時間を要するため多くを書くことができない。等

<学校との連携のポイントについて>

・事前指導:実習生に伝えたいことを実習前に直接話す。日々の連携体制:学校担当者と毎日連絡を取り、実習について共通理解する。目的・方法の共有:企業と学校が実習の目的を共通理解する。互いのノウハウや考え方を話し合っておく。実習性の希望や進路の理解:実習生がどのような体験をしたいのか等について知っておくこと、実習生の仕事に対する考え方を実習前に知っておくこと。傷害保険加入の確認:学校側の障害保険加入の確認、緊急体制の確保。指導員の確保:実習生の管理が空白となる時間が生じないように指導員を配置する。就職連携:実習が結果として就職に結びつくことが望ましい。等

<実習中の学校側の良い取組みについて>

・事前・事後指導の工夫:実習の意義・趣旨説明等を学生に理解を促している、何を学んだのか検証をしていること。巡回指導:実習中に実習生へこまめなフォローをいている、教員も体験に加わり、実習に対する考え方を伝達している、教員も直接指導していること。日報の取組み:毎日、レポートを作成し、企業へ提出している、学校の柔軟な姿勢:社会経験の場の教育として企業も難しく考えずに受け入れができる。自己テーマの設定:学生一人ひとりにテーマを決めさせていたこと。複数学校の同時実習:複数の学校が参加することにより、競争意識が芽生え、真剣に取り組んでいた。礼儀の徹底:毎日、最後に整列をして「ありがとうございました」と挨拶をしていたこと。感想文や実習記録の送付:実習終了後、感想文や実習記録を届けてもらったこと。等

<実習中に学校側に取組んでほしいことについて>

・きめ細やかな連携体制:事前打ち合わせ、実習中の企業訪問など学校の意欲的な姿勢。教員の实習参加:教員も部分的に実習を体験する。実習生管理:毎日、実習生に連絡し、問題点や健康状態の確認をする。発展的活動:実習期間中に興味を持ったことを実習後さらに調べたり、専門家に聞いたり、幅広い知識・知恵の会得をする。等

<はじめて受入れ企業へのアドバイスについて>

・安全確保や守秘義務のルール作り:実習生が危険物に触れない、または取り扱わせる場合のルールや方法をよく検討しておくこと。企業理解:受け入れ企業の得意としている内容を学校に伝えておくこと。プログラムの作成:担当者の配置プログラムの作成、実習生が興味を持つプログラムの作成。教育の場であることの認識:実習は、学生の育成に助勢していることを認識しておく、実習の取組みを明確にして取り組むこと。人的配置:専任の職員を期間中配置する。傷害保険の確認:学校が実習中の傷害保険に加入しているのか、緊急体制について共通理解しているかの確認。等

議題等

ここまでの中で意見を伺いたい。

【意見交換】

- ・Ⅲ-4-ア-③と④の回答企業数が多いが実際はどうか。
 - ③は理解できるが、④違うと思われる。
 - 受け入れ企業にはマニュアルはあるのか。
 - 何回か受け入れている企業は、マニュアルはあるはずである。
 - ④は企業に伝えた方がよいと思う。
 - インターンシップを受け入れている一番の目的は、就職とのギャップが生まれないようにすることである。例えば、設計希望で学んでいた学生が体験することにより、地図に載っている建物を造りたいと考え直した。もの作りの大切さのギャップが無いことが重要である。
- ・Ⅲ-4-イ-②の学校の教員が実習中に巡回指導することは企業から見てどうか。
 - 例えば、実習レポートを書かせるなどの学校側の取り決めがある場合、企業担当者はできないため教員は居た方がよい。
 - 学生の安全管理と職人からの指導など分かり易く学生に伝えることなどにも教員は必要である。
 - 学生は専門用語などの言葉が分からない。何が分からないのかが分からない状況になることを防ぐ。なるべく少人数がよいと思う。
 - 企業担当者に任せて7～8人まとめて一つの現場実習をすると、何しているのかが分からない状態で終わってしまうことがある。受け入れ企業側の対応ができない場合は、教員が1～2人居れば防げると思う。ほったらかし状態はいけない。巡回指導は必要である。等

<はじめて取り組む学校へのアドバイスについて>

- ・企業規模を調べて開拓:ある程度の企業規模を開拓の対象とすること。学生の希望職種の開拓:学生が希望するまた興味がある企業を選定し、開拓する。企業情報を調べて開拓:ホームページ等で企業情報を調査し、学生が希望するタイムリーな企業を開拓する。実際に企業を訪問:企業訪問し、会社内容や仕事場の様子を確認する。求人企業に絞って開拓:求人のある会社に働きかける。書面による依頼:事前調整後、書面による実習依頼を行うこと。業界団体に相談:業界団体に交渉し、受け入れ企業を斡旋してもらう。等

<はじめて取り組む学校側への留意について>

- ・実習を行う場合のルール作り:禁止事項や連絡体制、安全指導、緊急体制などのルールを作っておくこと。実習内容の確認:学生の希望と合致した内容か、どのような実習内容のプログラムなのか話し合っておくこと。実習目的の説明:実習の目的は就職前提のものでもなく、アルバイトでもないことをよく説明し、明確にしておくこと。実習意欲の確認:実習に参加する学生が建設業に関心があるかを確認しておく

議題等

こと。実習現場の場所：現場へ学生が通える距離にあるのか、交通機関状況の確認をしておく。受け入れ時期・期間の調整。必要経費の負担分担：交通費や昼食の手配等の負担方法を決めておく。傷害保険への加入：実習中の災害に対する傷害保険に加入していることを受け入れ企業に伝えること。等

<インターンシップ以外に学校と連携した取組みについて>

- ・定期的な現場見学会、研修会。等

<インターンシップ以外に学校と連携したい取組みについて>

- ・年齢、階層等の幅広い意見交換会、ドローン実演、出前授業。等

<その他気づいた点について>

- ・インターンシップの受け入れマニュアルを作成しておけば、毎年、受け入れることができ、社会貢献ができる。
- ・インターンシップは座学では学べない貴重な体験であることを事前指導しておくとう有効なものとなると思う。
- ・職種や内容に応じて細分化した進め方を検討する。
- ・全国技能士連合会や兵庫県技能士連合会と連携してはどうか。等
ここまでの中で意見を伺いたい。

【意見交換】

- ・分かっている方が書いている内容と思われる。
- ・このアンケートの内容は、新しく学校側がインターンシップを取り入れることに対して、参考となるポイントとなるのか。
 - このアンケート結果は、文部科学省へ全て提出するのか。
 - アンケート内容は全て整理した上で成果報告書に反映し報告する。ただし、もうひとつのガイドラインへの反映は、インターンシップの注意点や企業の考え方を整理・抜粋して反映するため、アンケート内容の全ては載らない。
 - 11月のフォーラムにおける企業発表のテーマとも一致している。
- ・新しく実施する学校側に対して、企業がどのように考えているのか、インターンシップを依頼するにはどのようにするのか、などを取り入れ提示していく。等

議題等

3. 事務連絡

11月22日(木)に本事業のフォーラムの開催、フォーラム終了後に第2回の推進委員会会議を17:30から行う。

推進委員会会議では、作成した動画を見ていただいた上で、ご意見を伺う。等

【会議風景】



本日はありがとうございました。本年度の施工部会はこれが最後となります。
また、11月22日の推進委員会会議が皆様のご出席する最後の会議になります。引き続き、よろしく願いいたします。との言葉で会議散会となった。

以上

会議議事録

事業名	平成30年度「専修学校による地域産業中核的人材養成事業」 建設分野における産学協働教育体制のためのガイドライン作成事業
代表校	専門学校日本工科大学校
会議名	マイスター部会会議(第1回)
開催日時	平成30年9月28日(金) 17:30~19:30(2h)
場所	専門学校日本工科大学校 会議室
出席者	①委員 ・井上雅仁、片山俊行、高嶋靖生、高原一岐、中農一也、長谷川武義、森本徹之、 吉川隆治(計8名) ③事務局 ・古河邦彦(計1名) (参加者合計9名)
議題等	会議の目的、次第、内容等を記載(必要に応じて別紙等で補足) 【会議目的】 ・専修学校版デュアル教育ガイドライン作成に向けた企業アンケート、参加者情報カード、 フィードバックシートの内容確認と意見交換等を目的とした会議を開催した。 【次第】 日時:平成30年9月28日(金)17:30~19:30 会場:専門学校日本工科大学校 会議室 1.開会 2.議事 (1)受入企業「受入・指導のポイント」等のアンケート調査について ・アンケート内容 ・アンケート配布先 (2)企業内実習・参加者情報カードについて (3)フィードバックシートについて 3.事務連絡 (1)次回会議日程 10月19日(金) 17:30~19:30 (2)その他 4.閉会 <配布資料> ・議事次第 ・アンケート(案) ・企業内実習・参加者情報カード(案) ・フィードバックシート(案)

議題等

【内容】

以下、次第に沿って会議が進められ、意見交換が行われた。

1. 開 会…

事業責任者の校長片山から、アンケート、参加者情報カード、フィードバックシートについて協議を行います。との開催の言葉で第1回マイスター部会会議が開催された。

(1) 受入企業「受入・指導のポイント」等のアンケート調査について

設計部会、施工部会ともに協議をした。基本的な内容の他に、大工左官業界にとって項目についてふさわしいかどうかの判断と他に入れた方がよい項目があるのかどうかの確認をお願いします。

また、アンケート内容の協議後に、配布先としてどのような近隣の企業があるのかご教示いただきたい。との言葉の後で配布資料アンケート(案)が読み上げられた。

1と2はプログラムの工夫新たに受け入れようとする企業に対する参考となる情報を整理する。

3も同様の内容、4は学校側に対しての内容、5は初めて受け入れる企業に対して内容、6は初めて取組む学校側に対しての内容と読み上げられた。

【意見交換】

・答え辛い、質問の意味が分かり辛いなどの項目があれば、ご教示いただきたい。

インターンシップを受け入れている企業も多いと思うが。

→書くよりも、選ぶ方がよいと思う。まとめることを考えるとある程度答えが決まっている選ぶ方がよいと思う。

→同じような回答はまとめることができるが、後半はまとめ辛いのは確かである。

→インターンシップという内容を知らない企業が多いと思う。御校に携わっている企業は知っていると思うが、インターンシップをしていることすら知らないと思う。

→分からない方のために、アンケートの冒頭にインターンシップの説明を入れている。

→アンケートが来ても関係ないと思うので、廃棄されると思う。

→設計と施工は会議終了し、アンケートを配布した。設計は、設計事務所協会と府政環境のご協力をいただき、兵庫県下であるが一斉メール送信していただいた。回答は現在、設計で3件。

施工は建設業協会の姫路支部に加入している企業へ郵送で2日前に発送し、1社の回答があった。

→末端の企業はインターンシップが行われているということ自体知っているのか。

議題等

- 送られてきたアンケートにインターンシップを受け入れると回答すると学生を超越してくれるのかという問い合わせは1件あった。
- 基本的には、企業側とすると学校からのインターンシップの受け入れの声があるが就職の斡旋してくれるというメリットを求める傾向にあるため、本来のインターンシップの趣旨と異なる捉え方をされるので、誤解が起きないようにする必要はある。
- 鏡の文章を同封して誤解が起きないように考えている。
- 鏡の文章同封の他に、何か並行して考える必要がある。
- 配布先の選定によると思う。学校の卒業生が就職したところなど。企業側としても回答協力が得られると思う。学校と関わりのない企業に配布しても難しいと思う。
- 50社程度あると思う。
- 左官組合は80社ほどあるが、インターンシップのことを全く知らない。他の地域の組合は自分の地域のものでないに関心を持たない。そこに配布しても無駄になる。もっと日本工科がインターンシップの取り組みをしていることに対して、多くの企業に知ってもらい、興味を持ってもらって、回答を得るという仕組み作りをしないといけないと思う。
- 伝え方が難しいと思う。
- 企業より地場産業の大工が多いが話はしている。姫路建設協会内部にある低階層住宅防災協会というところで60名ほどであるが、インターンシップの話はしている。
- 設計やゼネコンは受け入れているが。大手企業にインターンシップの話をするとうまく情報が欲しいと返事があった。左官がインターンシップを受け入れていること自体知らない状況である。もっと発信する必要がある。
- アンケートの目的は受入経験のある企業のノウハウをこれから受け入れようとする企業に提供する。学校に対しては、新しい受入企業の探し方のヒントを提供する。といったことである。
- 受け入れた企業にアンケートを書いてもらい、受け入れしていない企業に資料として参考にしながら書いてもらってはどうか。
- 本学校がお世話になっている企業は分かるが、他の学校を受け入れている企業は定義があると思い、一律に配布していくことを考えた。
- 全国の学校でしょうか。
- 全国となると作業量が膨大になるため、設計であれば兵庫県下、施工であれば姫路地区で実施する。
- 設計などであれば電車等を使って行けるが、施工となると距離が限られているため、姫路市に限定してノウハウを取るということである。文科省事業であるた

議題等

め、他の県でも使用できるようにしなければならない。そのためのアンケートである。

- マイスターとなると学校の近隣でないと難しい。
- 早朝などの時間と道具の問題がある。電車やバスが無い所も多い。
- インターンシップがどのようなものなのかということを説明書きとインターンシップ風景の写真を入れてどのようなものを理解してもらい、協力を得るという方向で行ってはどうか。
- もう少しつなげるように、Ⅱ-1の項目の言葉を受け入れたい企業と今後受け入れてみたい企業が回答できるように修正した方がつながっていくと思う。
- Ⅲ以降が受け入れた企業のみになっている。
- 受け入れた経験のノウハウを広げ、全国に共有していくため。
- 本事業はデュアル教育をどこの学校でもできるように汎用性のあるものにしてほしいとの要望があり、そこにつながっている。
- 受け入れたい企業の考えは今のところ必要は無いということか。
- 受け入れたいが、受け入れられないという情報も知りたいところはある。他県ではなかなかできてないところが現状である。よって、その情報があれば他県の学校でも実施できるという流れにつながる。不足したものを最終的にまとめ報告書で伝える。
- Ⅰ-1-②がその部分につながる。企業の本音の部分が出てくるようにしている。
- インターンシップをどのようにして実施するのかその方法が分からないという学校もあるので、その参考となるようにするためのアンケートである。
- アンケート内容は特に変更する点はないと思う(全員承認)。
- ・発送先についてどこがよいのか検討いただきたい。
 - 姫路建設組合の名簿はあるが、会社の分類がされていない。600程度ある。
 - 播磨左官組合はあるのか。
 - 廃業等で8～9社程度になっている。兵庫県であれば80社程度になるが、個人も入っている。
 - 大工も一人親方のところがある。
 - 個人は避けたい。
 - 姫路市の技能士会であれば、職種が入っているので活用してもよいと思う。
 - 名簿はあるのか。
 - 名簿はあるので提供することも可能である。市ごとにあると思うので活用してもよいと思う。ただ、調理師なども登録しているので、大工左官に絞って調べてはどうか。
 - 正会員一覧表があり、金属や洋菓子など分類されている。HPが無いところは検索できないようになっている。

<p>議題等</p>	<p>→大工左官関係企業をピックアップできる。</p> <p>→左官組合と技能士会の名簿は別である。</p> <p>→名簿については、精査し後日連絡を入れて相談する。 等</p> <p>(2)企業内実習・参加者情報カードについて</p> <p>配布資料参加者情報カード(案)の内容が読み上げられた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・氏名の箇所には学科・学年を入れる。8について、設計は④と⑤のみ、施工は②「高い所の作業は苦手ですか」に変更している。マイスター用としてご意見をいただきたい。 <p>【意見交換】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・受入企業のための学生情報である。他に知りたいのはあるのか。 <ul style="list-style-type: none"> →男女の性別は入れないのか。 →男女の性別を入れることはNGである。 →左官と大工は、特にトイレや着替えが重要になるので本来は入れた方がよいと思う。 →トイレや着替えは大きな現場はあるが、小さな現場は難しい。 →電話連絡を事前に行うので、差し障りが無い範囲でも伝えることはできる。 →参加者情報カードは、受入企業様に渡すものなので、担任の先生やインターンシップに同行する先生が書ける備考欄を設けるとよいと思う。そこでトイレが必要など性別を直接書くことなく伝える方法ができると思う。 →通勤方法を入れることはできないのか。 →参加者の情報カードで書くのか。その他の様式ですべきなのか。 →一つの手段である、受け入れ企業は準備に保険等を含めた諸条件があるため、学生を把握することへの統一のシートとして必要と思う。 →免許ありなど入っていた方がよいと思う。 →ただ、免許はあっても車がなければ書く意味が無いと思う。受け入れ企業へ直接依頼することには問題は無いが、団体や協会にお願いして学生を割り振りしてもらう場合は、車の所持については必要と思う。 →受け入れ企業は、通学範囲の所で探すべきと思う。 →大工道具の持ち運びを電車でするのはどうなのか。 →本来、電車で持ち運びすることではないので、実習期間内は現場に置かせていただくことが望ましいが、授業と同時進行で行うため、毎回持ち帰る必要がある。 →通学手段という別項目を入れるのか。 →8に条件を入れればよいと思う。実習現場へ自家用車で行くことができるのか。 等 →自宅から直接行くのか受け入れ企業から行くのかという。文言でもよいと思う。 →自家用車で行けるかどうかでした方がよい。
------------	--

議題等

- 可能な交通手段は何ですか。電車、車、自転車、バイク等という項目がシンプルでよいと思う。等
- 備考欄を入れるとあるが、備考欄の他にないか。
- 学校からの連絡や通信といった表現がよいと思う。等

(3)フィードバックシートについて

配布資料フィードバックシート(案)の記入方法についての説明が読み上げられた。

①～⑧は設計と施工と同一、⑨⑩は大工左官用に入れた項目、⑪⑫は設計と施工にも入れる。

この例を参考としながら学生に書いてほしいが、このことに対して意見をいただきたい。

【意見交換】

- ・⑨と⑩の技能と技術は曖昧と思う。現場監督はよく技術を使う、職人は技能をよく使う。
 - ⑨と⑩は分けなくてもよいと思う。⑩だけでよいと思う。回答し辛いと思う。
 - 引く術は技術で鑿(のみ)や鉋(かんな)を研ぐことは技能である。このシートは、学生が実習から帰って自分は何を学んできたつもりなのかを引き出すものである。例えば、学生が計画のつもりで学んだものが、教員から見ると法規であった等、間違いを正すことが明確にできる。学生が間違っただけで学んでいたのを振り返ることにより改善・指導していくのが目的のものである。
 - 技能で絞った方がよいと思う。
 - 3枚あるが、3枚書かせるのか。
 - 書くスペースを広く取っている為、3枚になった。3枚すべて書かなくてもよい。
 - 学生は3枚渡されたら3枚書かなければいけないと思ってしまう。
 - このシートは企業には渡すのか。
 - このシートは学校で活用するためのものであり、企業へ渡すものではない。
 - 教員が学生の傍に付いて書かせていかなければ違う方向で書く可能性がある。宿題で書かせるものではない。
 - 他の部会でもまずは学生にやらせなければ分からないという意見は出ていた。
 - 学生に自由に書かせるのも一つの手段ではある。
 - 「〇〇に関する体験」の箇所に自分が学んだと思う番号を入れる欄に変更し、①～⑩の番号を書かせるとよいと思う。
 - それを見て何を学んだつもりなのかを教員が判断する。等

議題等

【会議風景】



本日はこれで終了します。次回10月19日(金)17:30からの会議となります。引き続き、よろしくお願いたします。との言葉で会議散会となった。

以上

会議議事録

事業名	平成30年度「専修学校による地域産業中核的人材養成事業」 建設分野における産学協働教育体制のためのガイドライン作成事業
代表校	専門学校日本工科大学校
会議名	マイスター部会会議(第2回)
開催日時	平成30年10月19日(金) 17:30～19:30(2h)
場 所	専門学校日本工科大学校 会議室
出席者	<p>①委員 ・井上雅仁、片山俊行、高原一岐、長谷川武義、森本徹之、吉川隆治(計6名)</p> <p>③事務局 ・古河邦彦(計1名)</p> <p>(参加者合計7名)</p>
議題等	<p>会議の目的、次第、内容等を記載(必要に応じて別紙等で補足)</p> <p>【会議目的】 ・アンケート集計結果内容の確認をはじめ、その結果に対して適正である等の意見を求めることを目的とした会議を開催した。</p> <p>【次第】 日 時:平成30年10月19日(金)17:30～19:30 会 場:専門学校日本工科大学校 会議室</p> <p>1. 開 会</p> <p>2. 議 事</p> <p>(1)アンケート調査結果について</p> <p>(2)その他</p> <p>3. 事務連絡</p> <p>・デュアルフォーラム 11月22日(木)14:30～</p> <p>・第2回推進委員会 11月22日(木)17:30～</p> <p>4. 閉 会</p> <p><配布資料></p> <p>・議事次第</p> <p>・アンケート結果</p>

<p>議題等</p>	<p>【内容】</p> <p>以下、次第に沿って会議が進められ、意見交換が行われた。</p> <p>1. 開 会…</p> <p>事業責任者の校長片山から、本日はご協力いただきながら実施しましたアンケート結果集計の報告をします。その際に追加・お気づきの点等ございましたらご意見を願いますとの開催の言葉で第2回マイスター部会会議が開催された。</p> <p>2. 議 事…</p> <p>(1) アンケート調査集計結果について、配布資料のアンケート結果が読み上げられた。回答は13社。</p> <p><受け入れについて></p> <ul style="list-style-type: none"> ・条件によって受け入れるは、8割以上は受け入れられる。 ・受け入れに公平性が必要。等 <p><条件によって受け入れるについて></p> <ul style="list-style-type: none"> ・業務多忙と受け入れ現場のコンプライアンス状況による。 ・学校から声がかからなかったため受け入れなかった企業は69.2%であった。等 <p><受け入れ企業の判断基準について></p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生のやる気や熱意。等 <p><受け入れ人数について></p> <ul style="list-style-type: none"> ・受け入れ人数は1～2人が半数。等 <p><教育プログラムの考え方について></p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校と現場の違いの明確化、学生の育成、事故等を防止する段階的な指導。等 <p><教育プログラムの重視することについて></p> <ul style="list-style-type: none"> ・元請等の理解、現場体験、職業の厳しさ。等 <p><効果的なプログラムについて></p> <ul style="list-style-type: none"> ・現場体験や実務的なプログラム。 ・古民家再生：昔の建物の木組・構造のすばらしさや手道具・技術を磨く大切さを感じさせること。 ・現場の厳しさを理解する体験。等 <p><教育プログラムの見直し内容について></p> <ul style="list-style-type: none"> ・見学や掃除だけの体験。 ・最初から技術の伝承をする体験。等 <p>【意見交換】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職人は手元を見なければならぬので、受け入れ人数は1～2人が多いことは理解できる。
------------	--

<p>議題等</p>	<p>→学校側で専用に1～2人用意できるのであれば、もう少し受け入れることができると思うが、現実には厳しいと思う。</p> <p>→目の行き届く範囲。生身の現場であるため妥当と思われる。</p> <p>・Ⅱ-3-エの回答の意味はどういうことと思うか。</p> <p>→技術が追いついていない中で実習に参加しているので、技術習得のためには、1日中見学だけというものは考え直す必要はあるが、ある程度見学的な部分もあると思う。掃除も大事な仕事の一つと思うので、掃除の意味を学生に伝えてやらせていない点が問題と思う。</p> <p>→インターンシップの意味が受け入れる側に理解されていないということなのかもしれない。等</p> <p>左官の委員の方が欠席させているが、左官も同じような回答となるのか。</p> <p>→町場は同じと思われるが、野丁場は考え方が異なると思う。野丁場は町場よりもしっかりとした段取りが必要である。等</p> <p><受け入れするにあたり、企業内の体制について></p> <p>・迷惑をかけない体制、職員の体制、実習ができる現場の確保。等</p> <p><受け入れ体制の工夫について></p> <p>・取引先の理解、実習プログラム・スケジュールの工夫、模範となる職員の姿勢、社員の意識改革。等</p> <p><学校との連携のポイントについて></p> <p>・実習に対する相互理解、定期的な情報交換。等</p> <p><実習中の学校側の良い取り組みについて></p> <p>・実習後の感想を細かく伝えること。巡回指導、送迎の世話。等</p> <p><実習中に学校側に取組んでほしいことについて></p> <p>・実習中の企業との連絡、学校での実習の時間の使い方、他の学生の見学。等</p> <p>【意見交換】</p> <p>・「他の学生の見学」の意見として、インターンシップは、おそらく他の学校では、卒業までに一つの現場を見ることしかできないと思う。学校同士でお互いのインターンシップを見学できる場を設け、学生が将来的に生かせるようになる機会を少しでも多く与えることが必要と思って、提案的に書いたものである。</p> <p>→現場監督を養成するため、野丁場に入ることになる。職人系は無い。</p> <p>→怪我される確率が高いのは、受け入れ企業は避ける傾向である。</p> <p>→確かに他人や先輩の姿を見て、刺激を受ける学生はいる。</p> <p>→現場があれば、見学することもよいと思う。</p> <p>→半日程度の現場見学でも学生に効果はあると思う。</p> <p>→職人は学生から見られていると緊張する。</p>
------------	---

議題等

- 学生は飽きやすいため、そこが指導する立場になると難しい点でもある。
- 学校側と企業側の連絡を密にすることが求められている。はじめてインターンシップをするには、段取りをすることが重要で、その落としどころが重要である。
- 天候に左右されることもあるため、その後の調整も必要となる。はじめての学校ではその点に対応できないと思われるので、インターンシップをコーディネートできる人材が必要になると考える。そのマニュアル作りも今後は必要となるかもしれない。
- 特にゼネコンは毎回指導者が変わるので、写真や資料提供により理解してもらうことが必要。企業の指導者に対してインターンシップへの理解と現場との調整が難しい。等

<はじめて受け入れ企業へのアドバイスについて>

- ・安全面での配慮、特別扱いをしない、教育の場であるという意識、機関に応じた工程づくり、無駄だと思わないこと。等

<はじめて取組む学校へのアドバイスについて>

- ・業界との連携、卒業生の勤務会社への声かけ、学校視察

<はじめて取組む学校側への留意について>

- ・安全面への配慮、受け入れ時期の調整、計画の作成と共有、実習での心掛け指導。等

<インターンシップ以外に学校と連携した取り組みについて>

- ・町づくり活動の一環としての連携、地域交流、古民家再生。等

<インターンシップ以外に学校と連携したい取り組みについて>

- ・左官工、その他仕上げ工事ができる多能工を育成する、職人のなり手を増やす。等

【意見交換】

- ・回答している内容はよいと思う。企業のトップの方にも理解されるようなものと思う。
 - 四国の左官の企業が学校に視察しに來られて感心していたことが印象的であった。PRがもっと必要と感じた。
 - 中小企業同友会に参加しているが、支部長クラスに声を掛けるとその加盟企業へ発信してくれるので速い。異業種が集まっている色々な団体との連携は必要と思う。はじめての学校については、どの企業に声掛けするのかが分からないと思われるので、組合等も大事ではあるが、このような団体は地域毎に存在しているので、連携していくことも必要と思われる。
 - 伝え方としては、組合との連携は絶対的に欠かせなく、その他に、産業団体(界)の連携は必要である。ということになる。産業界にとっても異業種との交流をすることにより広がる可能性を持っている。
インターンシップ以外で関わることもある。

<p>議題等</p>	<p>→Ⅳ－２－②に「職人のなり手を増やす」とあるが、学生にとっても稼ぐことができるという賃金レベルを知ることで刺激となることも大事と思う。</p> <p>→Ⅳ－２－①には、疑問に思う。職人(＝専門工)を育成することに特化しているので便利屋さんを育成することは疑問に思う。</p> <p>→連携したい取り組みとした回答であるので、このような企業もあると捉えるだけでもよいと思う。</p> <p>→この回答はマイスターならでの内容である。施工では見られない回答である。左官や大工は地域が一つのキーワードとなる。職場が遠方ではないため、地域の方々にかわいがってもらえるような感覚にならないといけなと思う。</p> <p>→この地域ならでの回答と思う。他の地域、例えばゼネコンが多い東京地域で実施しても同じ回答にはならないと思う。</p> <p>→大工は居るが同じにはならないだろう。</p> <p>→他の専門学校に広める汎用性のある資料としてできると考える。ただ、長い付き合いのある組合等の団体協力が必要は欠かせないものであるため、一見さんで実施するのは難しいと思うが、一度実施すると継続的になると考える。インターンシップの理解と協力を得る活動をしてほしいと思う。</p> <p>→空き家が多くなってきているので、インターンシップで空き家を利用して地域のコミュニティの場を設けるなど、学校が地域交流を担う場を作り、大工の活躍の場は人から感謝されるものであるという、取り組みをしていただければよいと思う。</p> <p>→職業的な広がりを見出すことができることができればよいと思う。</p> <p>・インターンシップを行うことをしようとしている専門学校はどの程度いるのか。</p> <p>→学校の数は分からないが、やりたいと思っている学校はある。但し、それには教員の動きが無いとできないが、教員が諦めているのが現状である。建築・建設業界は受け入れたいが、学校側の動き方次第である。</p> <p>→現在は、インターンシップより企業が学校で講師として指導した方が安全で楽であるため、この方法が進んでいる。産業界と学校の連携が容易である。</p> <p>→どの業種も現場に入られると負担になる。それよりも派遣の方が負担は軽い。</p> <p>→確かにインターンシップを広げることとなると、コーディネートする人材が必要になると思う。例えば、インターンシップコーディネート育成事業があれば開発したいと思う。</p> <p>→ただ単に職業体験では無いという位置付けがインターンシップである。</p> <p>→受け入れ企業は色々と教える内容を考えているが、御学校は「仕事に必要なものは、何でも教えてほしい。」という柔軟な姿勢で取り組んでいただいているのがよい。受け入れ易い。仕事のタイミングや流れを無視した押しつけは難しい。</p>
------------	---

議題等

- 重要な意見なのでアンケートに回答に入れる。
- 基本的な学校側の姿勢として柔軟性は必要と思う。
- 学校で学ばせる部分を実習で学ばせるようになってはいけない。学校ですべきことはしっかりやった上で取組まないといけない。
- 学生は基本的には何もできないのが当たり前である。教員も現場も何もできないということを知って実習を行うことが重要である。
- 受け入れ企業はせっかくプロと一緒に仕事ができるので、何か学んでほしいと思っている。
- 技術のみを学ぶのも大事なことだが、なぜ禁止されているのかということを理解してもらうためには、可能な範囲で失敗する場面を見せることも重要と思う。等

3. 事務連絡

- ・デュアルフォーラムを11月22日(木)14:30～開催します。また、その後、第2回推進委員会会議を17:30～開催します。

11月22日で概ね会議等は終わり、第三者評価委員会会議と報告書のまとめで、3年間の事業は終了となります。などの説明が行われた。

【会議風景】



お忙しい中ありがとうございました。引き続き、よろしくお願いいたします。との言葉で会議散会となった。

以上

会議議事録

事業名	平成30年度「専修学校による地域産業中核的人材養成事業」 建設分野における産学協働教育体制のためのガイドライン作成事業
代表校	専門学校日本工科大学校
会議名	建設分野・デュアル教育推進各代会議
開催日時	平成30年11月8日(木) 17:30～19:30(2h)
場所	専門学校日本工科大学校 会議室
出席者	①委員 ・井上雅仁、柏本 保、片山俊行、田中政人、中農一也、難波利行、毛利幸弘、森本徹之 (計8名) ②事務局 ・古河邦彦(計1名) (参加者合計9名)
議題等	会議の目的、次第、内容等を記載(必要に応じて別紙等で補足) 【会議目的】 ・デュアル教育フォーラム(パネルディスカッションⅡ:企業が求める人材とデュアル教育の役割)の進め方と成果報告書のまとめの方向について各代会議の代表者から意見交換を行うことを目的とした会議を開催した。 【次第】 日時:平成30年11月8日(木)17:30～19:30 会場:専門学校日本工科大学校 会議室 1.開 会 2.事業代表挨拶 3.議 事 (1)企業が求める人材とデュアル教育の役割 (2)成果報告書のまとめの方向について 4.その他 5.閉 会 <配布資料> ・議事次第 ・フォーラムスケジュール ・成果報告書目次(案)

議題等

【内容】

以下、次第に沿って会議が進められた。

1. 開会

学校法人誠和学院日本工科大学校理事長の中農一也よりご挨拶を述べますとのこの言葉でフォーラム開催となった。

2. 事業代表挨拶

本日は、お忙しい中ありがとうございます。3年間の総仕上げとして22日に開催するフォーラムと成果報告書のまとめ方について各部会の代表者に来ていただきました。よろしく願いいたします。

3. 議事

(1)企業が求める人材とデュアル教育の役割

フォーラムの流れについて概要の説明が行われた(配布資料:フォーラムスケジュール参照)。

■パネルディスカッションⅡについて説明

・【モデレーター発言内容】企業が求める人材とデュアル教育の役割:企業内実習において学校では学べないことを学び、企業が求める人材を育成することである。

学校では学べない企業内実習だからこそ学べることは何かを1つ目の論点とする。

学校側から企業内実習により学校では学ぶことができないことを学び、学生が成長していく様子について意見を求める。「生徒の知識や技術の観点」、「学習に対する姿勢や意欲」、「職業や社会人育成の観点」といった企業内実習で得られた成果を学生の成長として話す。

企業内実習だからこそ学生を成長させることとはどのようなことなのか、事例を交えて紹介する。

→パネリスト企業の方々から発表していただく。その時間は意見交換も含めて一人当たりの時間が4分程度となるため、時間について気を付けていただきたい。等

・【モデレーター発言内容】企業内実習でしか学べない重要なことが明確となった。企業内実習での経験を次の学びや将来につなげるにはどうしたら良いのか。企業内実習を一過性にしないために学校は何をするべきなのかを2つ目の論点とする。

企業内実習で学んだことが実習時のみで終わらないようにするための工夫を学校に対する意見として述べてもらいたい。等

・【学校側発言内容】基本的な考え方として事前指導の場面、実習中の指導のポイントなど企業内実習の体験が学生自身に身に付くような工夫を述べてもらう。等

・【モデレーター発言内容】この発言について、現在の企業実習の事前・事後指導の学校の取り組みや改善点などについて意見を求める。等

議題等

→パネリストの方々に一人4分程度で発言をお願いする。

→パネリストの皆様の意見を聞き、今後どのような形で取り組むのかについて学校側から発言する。

→【パネリスト企業発言内容】企業内実習の充実を図るための課題やガイドラインのブラッシュアップする点や追加作成資料について助言をいただく。

【意見交換】

・会場からの質疑応答はあるのか。

→時間の関係上難しい。

・せっかくフォーラムへ来られる文科省の担当者はじめ、他校の方々から意見を聞いたらどうか。

→良いと思う。等

・【学校側発言内容】学生のアンケート調査からの導き出したものから「意欲を感じることが出来る」、「安全に気をつけて作業する重要性を感じる事が実感できた」、「社会人や職業人のマナーを身に付ける機会となった」、「コミュニケーション能力の必要性を感じた」、「職業人の仕事への考え方や姿勢を知る機会となった」など就職についてミスマッチを防ぐことになり、進路変更について考えるきっかけ作りとなる趣旨で具体性のある形で発言する。

一過性にならないための工夫:事前指導においては、「何のために企業内実習をするのか論理的に意味をしっかりと理解させて参加させる」、「着眼点について明確にする」、「日報を書かせて何を学んだのかを明確にさせる」。事後指導は、「フィードバックシート」や「感想文」を書かせ、企業での実習を振り返るようにする。

以後の学習の中においても、学生が書いた「日報」や「フィードバックシート」から学生が何を経験し学んだのかを把握し、授業の中でそのことを取り上げたり、他の学生に経験したことを広めたりするといった内容のものを発言する。等

→この後、インターンシップ学会の方からデュアル教育について意見を述べてもらう。この後、3つ目の課題に入る。

・【パネリスト企業発言内容】発言内容により変わるが、既に取り組んで評価するべきところや新たにに取り組むこと、強化するべきことと、新たにに取り組むべきことという観点で発言してもらいたい。等

【意見交換】

・パネリストが挙手し、指名されて発言するのか。順番を決めて発言していくのか。

→指名の方がやりやすいのではないのか。

→モデレーターより指名する形で進めていく。

・学校の説明を踏まえて、パネリスト企業から業界のことについて発言していくのか。

→その通り、企業側として学生が掴んで欲しいことを発言してもらう。

・2つ目の企業側から学校に対して、学校側で生かしてほしいものなどは難しいと思う。

議題等

- 受け入れ企業側から学校に要望することといった内容になる。
 - 総論の話ではなく、パネリスト企業は自分の職種のことについて話していただく。職種毎に内容が異なる。
 - 業界・職種の魅力的な部分と話していく方向で良いと思う。
 - ・学生が企業内実習に参加するにおいて勉強してきてほしいものは。
 - 測量機具を扱えるぐらいにはなって実習に来てほしい。
 - C A Dができれば良いが、現実では入学して半年の1年生となるとC A Dを使えることを望むのは難しい。操作を学ぶには3～4年は掛かる。
 - ・発言する内容は、事前に報告しなくて良い。想っていることを発言してもらおう。等
- (2)成果報告書のまとめの方向について
- ・成果報告書については、目次的には昨年とほぼ同じ流れで進める。ただし、本年度のアンケート調査結果も含めた内容も入れる。3年間の取り組み内容と本年度のアンケート調査内容を入れる(配布資料:成果報告書目次(案)参照)。
- 成果物も昨年と同様に1冊にまとめて入れるように考えているが、目次案作成については、フォーラムと推進委員会会議終了後に随時作成していくため、現時点では作成できていない。
- ただ、フィードバックシートやフォローアップシートなど追加する様式や、アンケートの削除など様式に特化した内容で作成する。このようなまとめ方で進めるが、ご意見を伺いたい。等
- 【意見交換】**
- ・成果報告書のページ数は増えることになるのか。
 - 単年毎に完了するものではなく、3年事業を進めているため、昨年度までの取り組み内容と本年度事業取り組み内容を入れるのでページ数は増加となる。
 - ・目次や掲載内容についてどうか。
 - 特に問題は無い。
 - ・アンケートはどこまで入るのか。
 - 全て入れる。グラフとコメントも添えて作成する。
 - ・フォーラムの内容は入れるのか。
 - 議事録のような形で掲載するが、デュアル教育の取り組みの参考となる発言は報告書と成果物への掲載を考えている。
 - ・成果物のページ数はどのようになるのか。
 - 削除する部分もあるが、追加様式などもあるため、基本的には昨年より増加する。どの程度増加するのは、実際に作成してみないと分からないが、不必要と感じたものは削除するため、昨年度掲載のものが無くなることもある。
 - ・特に要望はあるか。
 - 報告書や成果物については、今のところ特には無い。普及活動動画に興味ある。

議題等

→フォーラムと推進委員会会議に間に合うように制作中である。その際に率直な意見を伺いたい。

【内容】

以下、次第に沿って会議が進められた。

1. 開 会・・・

事業責任者の片山校長の挨拶によってデュアル教育推進各部会代表者が開催された。

2. 事業代表挨拶

本日は、お忙しい中ありがとうございます。3年間の総仕上げとして22日に開催するフォーラムと成果報告書のまとめ方について各部会の代表者に来ていただきました。よろしく願いいたします。

【会議風景】



本日は、お忙しい中ありがとうございます。フォーラム後の17:30からの推進委員会会議では、デュアル教育の普及活動における作成動画について意見交換を行います。との言葉で会議散会となった。

以上

会議議事録

事業名	平成30年度「専修学校による地域産業中核の人材養成事業」 建設分野における産学協働教育体制のためのガイドライン作成事業
代表校	専門学校日本工科大学校
会議名	デュアル教育推進フォーラム
開催日時	平成30年11月22日(木) 14:30～17:00(2.5h)
場所	専門学校日本工科大学校 会議室
出席者	<p>①委員</p> <p>・安孫子勇一、井上雅仁、内海秀明、柏本 保、片山俊行、嶋田 聡、高原一岐、田中政人、 所 達弘、中農一也、難波利行、長谷川武義、濱本一志(一幡孝明委員代理出席)、堀 内秀樹、増田和仁、毛利幸弘、森本徹之、 吉川隆治、鷺尾和正(計20名)</p> <p>②オブザーバー</p> <p>文部科学省総合教育政策局生涯学習推進課専修学校教育振興室</p> <p>・福島健太(計1名)</p> <p>③事務局</p> <p>・古河邦彦(計1名)</p> <p>(参加者合計22名)</p>
議題等	<p>会議の目的、次第、内容等を記載(必要に応じて別紙等で補足)</p> <p>【会議目的】</p> <p>・3年間にわたり、取り組んできた本事業の論点の整理を基に、パネルディスカッション による学生目線と企業目線からの意見を聞くことにより、デュアル教育の意義と今後の 発展に向けた協力体制を再確認することを開催目的としたものである。</p> <p>【次第】</p> <p>日時:平成30年11月22日(木)14:30～17:00 会場:専門学校日本工科大学校 講堂</p> <ol style="list-style-type: none">1. 開会挨拶2. プロジェクト代表挨拶3. 来賓挨拶(文部科学省・兵庫県)4. 基調報告5. パネルディスカッションⅠ:学生目線からデュアル教育を考える(眼から鱗体験)6. パネルディスカッションⅡ:企業が求める人材とデュアル教育の役割7. 閉会挨拶

議題等

【内容】

以下、次第に沿ってデュアル教育推進フォーラムが進められた。

1. 開会挨拶

学校法人誠和学院日本工科大学校理事長の中農一也よりご挨拶を述べますとの言葉でフォーラム開催となった。

2. プロジェクト代表挨拶

この度は、多数の皆様にご多忙の中ご出席いただきまして誠にありがとうございます。

本事業は平成28年より3年間にわたり研究事業を行ってきました。専門学校は実践的な職業教育をする高等教育機関であり、如何に学習と実践を組み合わせる効率的な教育をするかということが本事業のテーマで、そのテーマを明確に示すガイドラインを作成する事業であり、作成したガイドラインは全国の専門学校へ普及をすることが目的です。

本校は、平成13年に産業界と連携したインターンシップの研究事業を受託し、受託終了後においても、地元の建設業界の協力とともにインターンシップを続けてきた。

その実績をもとに、他校の事例調査も含め、3年間という期間をかけて全国へ普及できるガイドラインが作成できたと自負しています。この報告会を通して新たなものが見出せる事ができればと思います。有意義な報告会であることを記念として挨拶とさせていただきます。本日はありがとうございます。との挨拶が述べられた。



3. 来賓挨拶(文部科学省・兵庫県)

【文部科学省総合教育政策局生涯学習推進課専修学校教育振興室からの挨拶】

産業の高度化やグローバル化の進展に伴い、産業界からの様々なニーズが出てきています。

そのニーズに応えるべく質の高い人材を養成するため、実践的な職業教育を行っている専修学校の果たすべき役割は大きな存在です。実践的な職業教育は、学校のみならず、企業との連携が必要と思われます。

本事業は専修学校と企業が連携して実施する学習と実践を組み合わせる効果的な教育手法を開発していただき、学校・産業界の効果的な教育を実施するガイドラインを作成し、全国へ普及することを目的としていま



議題等

す。

今回、本フォーラムを通して、全国の専修学校で活用され、企業等との連携することによる新しい実学やアクティブラーニングの視点から学びの改善などを含めた効果的な教育実践が全国の専修学校において進められることで産業界のニーズを踏まえた専門人材の養成が推進されることを期待しています。といった挨拶が述べられた。

【兵庫県企画県民部管理局私学教育課からの挨拶】

本事業は、平成28年度より3年間にわたり、建設分野における産学協働教育体制におけるガイドライン作成事業に取り組んでいます。

本事業は、建設業界関係企業の方々のご協力からインターンシップ等において、新たな教育手法の開発と企業との連携方法について、実行的なガイドラインの作成をしている推進事業です。

今後、社会的な要請や課題に備え、理論と実践力を備えた職業人を育成するため、本事業で開発されたガイドラインを全国へ普及していただくこと

もに、この先もさらにブラッシュアップしたものを開発し、県下問わず全国へ普及していただきたいと思っております。といった挨拶が述べられた。



4. 基調報告

片山校長より、以下の内容の報告が行われた。

デュアル教育とは、学生の皆様にはインターンシップとよく思われるが、インターンシップは、単発的な社会体験も含めた広域的な言い方です。学校で学んだ学習と企業での実習で学習を深め、次の学習へ繋げるものがデュアル教育になります。

本事業は、産学官連携で取り組み、「設計部会」、「施工部会」、「大工左官(マイスター)部会」を設け、それぞれの業界・企業のご協力をいただきながら、「設計部実習」、「施工実習」、「大工左官(マイスター)実習」を行ってきました。

活動内容として、学校で学んだ講義と企業実習を結び、進めてきました(PPT映像参照)。

本年度においては、今までの造園実習中心であったものを「測量実習」・「施工実習」を取り入れ、土木系の実習の充実を図り、体系的に行ってきた。

どのような実習であったのかこれから流す動画を見てください。

→動画が流される。

- ・次に、PPTのスライドに沿って本事業の取り組みで明らかになった論点を整理したものの説明が行われた。

【論点の整理1：企業の実習の受け入れについて】

議題等

特に企業内実習を行っていない学校からの意見で、専門学校企業は実習を受け入れてくれるのかという問いに対して、兵庫県内での調査では、受け入れる、条件によって受け入れるが88%の企業であった。残りの企業は企業規模の理由であった。

条件においては、時期や安全の問題、企業の繁忙期の問題、現場が学習に適したものかななどの回答であった。学校と企業が話し合えばできるとの結論に至った。等

【論点の整理2：学校は何をするのか。学校は生徒を送りっぱなしではいけない。】

次のように整理した。

①実習前は、事前の趣旨目・的指導、自己テーマの設定、②事前の安全や礼儀作法、③救急体制の確立と企業との綿密な打ち合わせ、

④実習中の定期的な巡回指導、ポイント⑤学生の実習状況の把握と指導、⑥企業とのコミュニケーション、⑦学生の日報の作成システム、⑧教員への実習への参加(学生と同じ立ち位置の経験)、⑨実習後の振り返り、個人・集団への振り返り、実習後の発展的な活動、例えば、実習は建物の途中で実習を終えたのであれば、最終的に完成を見る機会を設ける活動が必要。等



【論点の整理3：職業実践力を育成するにはどのような活動を構成すればよいのか】

パネルディスカッションⅠで学生・卒業生、パネルディスカッションⅡで企業側の意見や考え方を発表する場を設けているので、参考としていただきたい。などの報告が行われた。

5. パネルディスカッションⅠ：学生目線からデュアル教育を考える(眼から鱗体験)

在校生の紹介と卒業生の紹介が行われた。

[モデレーター]現場を体験するインターンシップで一番楽しかったこと、ワクワクしたことは何ですか。

[在校生]夏休み期間中に興味がある設計事務所と施工現場のインターンシップに行った。

施工現場は地震の研究をしている所で、耐震の建物について学んだ。その他、鉄筋を組んだり、コンクリートの型枠の作成をしたり、足場の組み立て、設備等を体験して楽しかった。

神戸の設計事務所では、現地のタイル張りの打診調査、打ち合わせへの同席、事務的な作業、最終的には課題的な形でJ-WCADを使って実際の小学校の増築案を作成させていただいた。現場がどのようなものという体験ができたことが楽しく面白かった。

・実際に動いている浚渫工事現場を見学できたことが楽しかった。授業で習った機械が見られたことが楽しかった。

<p>議題等</p>	<p>・マイスターでかみかわ木造インターンシップを実習の延長での体験と古民家での体験をさせていただいた。もともと興味のある職業であったが、実際の現場で職人さんと一緒に小さな物から手の込んだ物のものづくりをし、知識や技など教えてもらえたことが楽しかった。卒業生の方から仕事の取組みに対する姿勢などが聞いたことがよかった。等</p> <p>[モデレーター]興味があるという発言があったが、興味を持つことがワクワクすることにつながるということが聞いてわかった。</p> <p>次に、インターンシップに行く前と行った後では、どのようなところが変わったか。</p> <p>[在校生]自分の向き不向きが分かった。設計と施工の実際の現場を通して、設計向きであると分かり、将来目指す進路が定まったこと。</p> <p>[モデレーター]将来を見据えた動きが変わった。</p> <p>[在校生]インターンシップに行く前は資格のことを特に考えてはいなかったが、行った後は、資格を持つと色々な仕事ができると分かり、色々な資格を取得しようと考えが変わった。</p> <p>[モデレーター]誰に教わったのか。現場監督さんですか。</p> <p>[在校生]監督さんではなく、現場を案内してくれる方。</p> <p>[モデレーター]インターンシップを経験することにより、資格に対する意欲が湧いた。</p> <p>[在校生]設計には興味があるが、パソコン操作は苦手であり、インターンシップでもCADばかりなところがきつかった。</p> <p>[卒業生(設計)]CAD操作ができないと設計事務所で働くことは成り立たない。不向きではないのか。</p> <p>[モデレーター]資格を取得すると色々な仕事ができる点について、卒業生にお聞きしたい。</p> <p>[卒業生(施工)]施工管理の仕事は、入社して目標とするのが現場の所長を目指すこと、それには一級施工管理技士が最低限必要な資格である。絶対通らなければならない資格であるため、資格取得へのモチベーションを保ちつつ日々の仕事の中で経験を増やしていく事が大切である。</p> <p>[モデレーター]資格取得のモチベーションを上げるのも、インターンシップの役割と思う。</p> <p>[在校生]行く前は教科書で学んで名前程度しか分からなく使用するイメージもできなかったが、実際の現場で見たり、使用したりすることで振り返りの座学の勉強でイメージができるようになり理解が深まった。また、進路についてもより明確に考えられることとなった。</p> <p>[モデレーター]学生の意識が変わったことについて何か特別な指導をしたのか。</p> <p>[卒業生(マイスター)]就職してから資格取得に対するモチベーションを保つことが難しい時が来る。自分の未来のために今の20代という若い時間と労力を犠牲にしてでも、将</p>
------------	--

議題等

来自分の資格を獲得することを目指してほしいと伝えた。

[モデレーター]本校の卒業生の先輩から在校生へ直ちに教えてもらうデュアル教育は非常に意味があると感じたが、実際に在校生はどのように感じたのか聞かせてほしい。

[在校生]座学の授業で先生の方と教科書で学んだことをベースにインターンシップへ参加することにより、教科書の内容と現場とを比べる事ができ、より深く学ぶことができたと思う。また、専門的な知識や技術の理解も教科書では分からない現場の雰囲気や職人さんたちとのコミュニケーション、今まで漠然としていた進路もより具体的にイメージできるようになった。

- ・普通の授業とは違い、インターンシップでは実際に現場に行って仕事をするので、授業で聞く話だけでは想像しにくいものも実際に目で見たり、体感できたりするため自分の将来を想像し易い。

[モデレーター]学校では学生へ必要と伝えているものが、なかなか伝わり辛い部分も、インターンシップを通して実際の現場に行くことにより、必要だと学生自身が実感できる場となっている。

[在校生]実際の現場見学を行っていることがすばらしいと思う。進路に関して固まると十分感じているので、良いことと思う。インターンシップがあることで、学校で教わった内容を現場で感じるができるし、また、現場で実際に経験しているから理解を深めることができる。新しく何か気付くことが出てくるかもしれないと思うので、インターンシップの取り組みは良いことと思う。

[モデレーター]インターンシップを通して、学校で気づかない新しいことという形で発言してもらった。学校で学ぶこと以外で気づくことが一つのテーマとなると思う。

卒業生へインターンシップを経験したことで役に立った良と思った所をお聞きしたい。

[卒業生(施工)]施工管理マンション現場へ参加した。現場の雰囲気や空気感を体験することができた。現場所長は怖いイメージで厳しいと思っていたが、職人さんへの指示の丁寧さなど自分が想っていたことと違う対応をしていたことが、将来目指すべき姿となるものが見え、これから自分がこのような現場監督になりたいという学ぶための基準となったことが良かった。

[モデレーター]自分が就職した先の未来像が見えた意識できたということがこの発言からわかる。

[卒業生(マイスター)]1年生と2年生にインターンシップに行ったが。大工の棟梁の良さを体感することができた。大工の棟梁は概念が確立されている。それぞれ言うことが異なり、職人それぞれが完成されているが違う理論を持っていることに感銘を受けて、そのことが学生の時には理解できなかった領域が、現在は大工の仕事を続けてきて一歩踏み込んだところを理解できるようになった。

色々な棟梁から聞いた中で、自分の中で納得できる理論を少しずつ吸収し、自分のやり方で確立できるようになってきた。

<p>議題等</p>	<p>[モデレーター] 学生時代は経験が無いまま用語も分からないまま、未消化のまま卒業していくことが多々ある。仕事をして技術・技量が上がると理解できてくる。</p> <p>[卒業生(設計)] 設計は就職をして実際仕事をする現場の作業は行わない。ボルトの締め付け、壁塗り、レーベル等はやることもあるが、実際に設計に入ってできないことを学生に間に体験できることが、実際設計する立場になって大変役に立った。現場の所長や職人さんとの会話にも入り易く役に立っている。</p> <p>[モデレーター] 就職前にインターンシップで体験したことにより、会話に参加できるきっかけとなりコミュニケーションがとれる。</p> <p>本学校を卒業してから、現在は受け入れ側として対応しているが、難しかった点や良かった点などがあればお聞きしたい。</p> <p>[卒業生(設計)] 学校の授業の進め具合を把握しているため、受け入れ時期によって学生のレベルにあった指導ができること。</p> <p>[モデレーター] 課題を与えるレベルが分かることが良い点。</p> <p>[卒業生(マイスター)] 今の自分の色々な考えから導き出したやり方を学生に伝えて、少しでも納得したり、吸収してくれたりしてもらえることがやりがいのあるところが良い点。作業途中で伝えたいことがあると説明に入るため、なかなか作業が進まないところが難しい点。</p> <p>[モデレーター] 多くの伝えたいことがあるが、作業しながら伝えることは難しいと思う。</p> <p>[卒業生(施工)] インターンシップに来る日は現場の職人は構える。学生に指導するために職長さんを一人取られるため作業スピードが落ちる。そのための段取りを2日前から行い、準備し、学生に有意義な授業となるように工程管理をすることが大変である。その他、気持ちよく学んでもらいたいため、掃除と整理をする。</p> <p>また、普段仕事で使用している用語などを学生に伝え易くすることを考えることが大変ではあるが、自分自身も学べたことが良い点。</p> <p>[モデレーター] 学生の方には理解していただきたい。企業の方はある程度リスクを抱えて教えている。1日作業が遅れるリスクの上でインターンシップは成り立っていることを覚えていてほしい。</p> <p>デュアル教育は、学校教育と企業内教育の2つの場所で行う教育のことであるが、学校教育だけで良いと思っているのかお聞きしたい。</p> <p>[卒業生(マイスター)] 学校の勉強は幅広い知識を学ぶことに意義がある。実際の現場においては、どのようなやり方でどのような格好で仕事をしているのか、工程はどのようなになっているのかなど実践的な目の前のことが学校の授業では分からない。</p> <p>我々の仕事の実際の現場では、掃除が一番大事な事であるため、インターンシップにおいては真っ先に学生に教える。</p> <p>しかし、ほうきの身の持ち方などがバラバラであるため掃除の概念から教える。</p> <p>このように我々の仕事の実際の現場では目の前のことを処理することが大事である。学校の授</p>
------------	--

<p>議題等</p>	<p>業もこのようなことを踏まえた上で、インターンシップを取り入れていただきたい。</p> <p>[モデレーター]この卒業生の発言はかなり参考となりました。可能な限り学校でも取り組んでいきたいと思う。</p> <p>[在校生]学校教育の造形や製図は作業なので苦にならないが、学校教育の座学は聞くことがほとんどであるところが苦痛である。</p> <p>しかし、企業内教育での実際に働いているところを見たり、働いている方から聞いたりする体験は、将来が具体的になるので、学校教育と企業内教育は大切と思う。</p> <p>[モデレーター]学校は楽しい場所でもあるし、自分の意に沿わないところもあるところである。</p> <p>[在校生]やはり、学校教育だけでは物足りないと感じる。例えば、授業の教科書の中の小さな挿絵や使い方についても現場の雰囲気を感じながらの体験により、分かることがあるので2つの場所での教育は良いことと思う。</p> <p>[モデレーター]学生にとって学校は先生も許してくれるところもあるため、どうしても甘えてしまうところがあるが、企業という違う環境に置かれた時に、自分が見えるのが企業内実習と思う。挨拶一つにとってもコミュニケーションをする上で大切な事である。インターンシップをもっと改善するべき点を聞かせてほしい。</p> <p>[在学学生]特には無いが、あえて言うとするならば、例えば、設計インターンシップの時に、ランダムに企業へ行かせるのではなく、やりたい内容の要望を踏まえた上で行かせてほしい。やりたいことができないのはインターンシップにならないと思ってしまう。個人的には、交通費の負担が大きいので、そこを考えてほしいと思った。</p> <p>[モデレーター]学校も取り入れるべきところは、取り入れていくように考えていく。</p> <p>[在学学生]台風の影響でインターンシップの期間が短かったので、その場を与えてほしい。</p> <p>[在校生]インターンシップの期間のほとんどが、1種類で同じ事ばかりであったため、集中力が持たなかった。</p> <p>体験して感じたことの個人差はあるが、色々な内容のものを経験したかった。</p> <p>[モデレーター]興味を持ったところを突き詰めていきたいという考えから来た回答と思う。</p> <p>[在校生]受け入れ企業さんは大変と思うが、もう少し長期にわたり経験したい、色々なことを知りたいと感じた。</p> <p>[モデレーター]専門学校という2年間の時間的な制約がある。学校での座学授業との兼ね合いがある。今後の検討を重ねていく。改善点のご意見ありがとうございます。</p> <p>[卒業生(施工)]指導する側としても学生の時でも感じたことは期間が短いこと。施工管理の仕事の醍醐味は、何も無い更地から建物が仕上がり、完成、引き渡しまで行い、自分が関わった建物であると体験することが入社して感じたことである。</p> <p>インターンシップは、ある程度の期間や学期で括られているため、工程の一連の流れを</p>
------------	--

議題等	<p>見せながら、完成まで見る事ができない。</p> <p>ただ、完成を見ることによって、学生自身とっても自分が関わっていた勉強したというやりがいを感じられたらそれが施工の魅力になると思う。</p> <p>学生が現場に来て図面を見せながら施工管理の説明をしても、理解できない。インターンシップをする前に学生に知識として教えてほしい。学校での学習と企業学習の違いを感じるところも学生にとっては良い経験となると思う。</p> <p>[モデレーター]現場と学校教育で学ぶことは、異なることがあることも事実である。次に行く現場を知っておくことも大切な事であると思うので、検討していく。</p> <p>[卒業生(マイスター)]インターンシップには、大工希望や現場監督希望、大工でも宮大工や家大工になる学生もいる。実習していく中で、一步踏み込んだこととしては、学生が望む方向に一人ひとりに対して適切なアドバイスをしながら接していくことが課題となっている。</p> <p>[モデレーター]参加学生の情報ができる限り細かくあった方が良いのか。</p> <p>[卒業生(マイスター)]就職先やどのように進みたいのか、資格をこれから取りたいのか等を含めたものがあれば、インターンシップに参加する学生にとって意義のあるものになっていくと思う。</p> <p>[モデレーター]興味のあるものを引き出しながら、気を遣って受け入れをしていただいている。</p> <p>[卒業生(マイスター)]参加する学生には、学生自身が望んでいることを可能な限り汲み取って受け入れていきたい。</p> <p>[モデレーター]受け入れ側の指導者は、このように気を遣って指導していただいている。</p> <p>[卒業生(設計)]設計インターンシップは1年生の夏休み期間であるが、1年生の2～3月や2年生の早い時期など、もう少し学校の授業で経験して理解した上で参加する方が望ましい。</p> <p>[モデレーター]受け入れの期間については、他の設計事務所でも話に上がるが、どうしても専門学校の間という時間的な制約がある。</p>
-----	---



この度は、楽しい意見や貴重な意見をいただきまして感謝します。卒業生の先輩の皆さんには、これからも後輩の指導、ご自分の仕事が安全に進んでいくことを願っています。ありがとうございました。との言葉でパネルディスカッションⅠが終了となった。

6. パネルディスカッションⅡ：企業が求める人材とデュアル教育の役割

- ・パネルディスカッションⅠは、在校生と本校の卒業生を中心に学生の立場からの意見を聞く場であったが、パネルディスカッションⅡは受け入れる企業と送り出す学校の立場からの意見を聞く場である。との挨拶で開催された。
- ・パネリストの企業紹介が行われた(デュアル教育推進フォーラムスケジュール参照)。

[モデレーター]

本日のパネリストの企業の皆様は、毎年、本校の学生を受入れてくださっているお世話になっている企業で、生の声を聞く事ができる機会である。受け入れる企業からすると学生が学んでほしいもの、期待するものをお聞きしたい。

[パネリスト]

- ・設計事務所：企業内実習だから学べるということですが、設計事務所協会と兵庫県 建築設計監理協会の関係者である。建築事務所協会は管理建築士を立てて、事務所を登録として仕事をしており、設計事務所だけではなく、ゼネコンも管理建築士を置いておけば加入できる。建築設計管理協会は純然たるオーナー所長の建築家だけの会で兵庫県だけの会で非常に少ない。他に建築士会、建築協会という個人で入れる会もあり混乱すると思うが4つほどある。デュアル教育に関しては、設計監理協会の代表として参加しながら、建築事務所協会の協力も得て主に2団体が中心に、8～9月の学生の夏休みの間、一人2週間という期間内でワークスタディというシステムで行っている、今年も大学等を含め、60名程受け入れている。実習内容のミ

議題等

スマッチについて、先ほど「やりたいことができない。」という発言が学生からあったが、地域性を考えると、通学距離や受け入れ状況などの問題もあり、必ずしもやりたい内容ができる場所見つかるものではないという難しいという点がある。CADばかりや現場の視察、監理業務を見てもらうといったものもある。

弊社で行っているカリキュラムは、学生に家族構成や敷地など条件を提示して、学生自ら計画した形を平面図や立面図をCADにおこし、それを基に会社スタッフが手伝いながら模型を作る(立体となってできあがる)という流れで行っている。10日ほどの実習しかないが、実習の学生はきちんと仕上げる。

設計という仕事はコツコツと積み上げていく作業が多く、想っているほど華やかな世界でもない、ただ、ものづくりの楽しさを体感してもらうプログラムを考えている。

過去の企業実習後の学生感想文を一部読み上げる「図面に落とす作業が如何にきれいで丁寧に作成することが施主さんにとって大切であることがわかった。」「毎日、事務所には何件も電話があり、依頼を受けたり受けていただいていたりと設計事務所という仕事に少し居ることができたと感じた。」「実際に、依頼主さんや施工業者さんと普段の生活では身近に関わることができない方々がたくさんいることを知り、設計事務所を新鮮に感じることもできた。」「電話の応対、言葉遣い、訪れた方への対応・配慮について、耳で聞いたことを実践しているところを体験できたことが勉強になった。」「指導担当者の方からは、建築以外でも分からないことは聞くように言われていたが、自分の作業が精一杯であり会話ができなかった。」「設計事務所の雰囲気は場所によってそれぞれあるが、この事務所はアットホームな雰囲気で私にとっては居心地が良かった。」「事務所は、魅力的な安藤忠雄さんが設計したところで、皆さんが尊敬していることが分かった。」「授業で学ぶ事より、専門的に勉強ができて仕事だけでなく様々な知識を得られた。」「印象に残ったことは、お客さんからの電話対応で、相手の事を気遣っていたこと。仕事関係ではなく身の回りの出来事などに触れたりして、設計事務所ではあるが、人との繋がりが大事なことであると感じた。」「建築士は図面を書く能力だけでなく、他人を納得させる人間力と信頼力が備わっていないといけないと感じた。」「建物一つ建てるにしても、多くの業者さんと関わっているので、人との信頼関係を結ぶこと、期限を守ることの大切さ、作業スピードと効率化や人付き合いの大切さ、伝える大切さを学んだ。」などが心に残った。受け入れ側の我々は、段階的に技術を学んでほしいと思っていたが、気が付かなかったことである。

学生が耳で体験しながら知らず知らずにこのように学んでいたことが嬉しく思った。このようなことがデュアル教育であると感じた。

- ・施工会社：インターンシップの受け入れについては、「企業は人なり」というという基本理念をモットウにしており、参加する学生には、多種多様の仕事について、実際の現場を体験してもらっている。現場においては、指導や叱られることがあると思う、感

議題等

情的に怒っているのではなく、叱っていることがあり、様々な職人さんや職長さんから学生に向かって叱っている場合は、実際に期待している裏返しであり、暖かさに恵まれていると実際の現場で雰囲気を感じてもらいたい。

また、ものづくりの大切さや楽しさ、難しさというものを実際に実感してほしい。

若い学生が自由に意見を述べることができ、常にチャレンジする精神を持ち、自分独自の価値観を作る場がインターンシップの場であると思う。そのことにより、それぞれ一人ひとりの学生が今後企業に入社した際に、仕事に対するイメージのギャップが無くなり、短期間で辞めることが無くなる。

個人的には、「やり抜く根明」「プライドのある情熱家」「野心のある努力家」が好きなタイプである。

[モデレーター]ハートのものを発言されているが、具体的にお聞かせください。

[施工会社]学生の方々自身、自分の興味のあるものを考えれば分かると思う。価値観という難しい言葉を使ったが、多くの学生の方々は大社会経験もないため、設計、施工管理、マイスターのどれをしたいのか漠然としていて判断が難しいと思う。その中で、インターンシップという取り組みは、どの道に進みたいのかという判断をする手段としては効果的なものと思う。

[モデレーター]建設技術を学んで欲しい、現場監督の仕事内容を分かって欲しいということではなく、職業観を感じて欲しいということなのか。

[施工会社]仕事が自分自身に身に付くことはどのようなことなのかという順序も含めて知る機会である。

学校卒業したばかりの新入社員は、ほとんど会社では活躍できない。入社後3～4年目になると後輩に教える立場となる。仕事を覚え、教えることにより、自分自身に身に付くことが多くなる。

他人(後輩)に教えることができないと身に付いたことにはならないというその順序が大切である。

インターンシップは、学生にとってもその順序を学ぶ機会であることもあるため、指導者(卒業生等を含む若い先輩)の姿を見て体験することができるよい取り組みであると思う。

造園組合:組合代表として話をさえてもらう。私どもの組合は、技能集団・技術集団、民間(個人)の施主さんの所で仕事をしているところである。技能士(技能職)は全国に100以上あり、多種多様にある。技能士(技能職)という方は362万人いる。私の団体はものづくりをする団体である。造園に限らず、技能職は匠というくくりのものである。この匠は、厚生労働省が認定しているものづくりマイスターとも呼ばれるが、技術の指導・伝統技術の継承をしている。

造園インターンシップを日本工科大学校で年1回している。インターンシップという職業体験で何が学べるのかというと、ものづくりでは結果的に成果品ができるが、例

議題等

例えば、学校では成果品を見ることはできるが、その成果品ができるまでの過程の体験はできない。

このように本職の職人さんの作るもの(技術)を目の前で見る、感じるという本職の職人さんの知恵や工夫を実際に体験することが醍醐味と思う。

ものをつくっていく過程で何かを感じるということがとても大切である。感動という言葉は「感じて」と「動く」という言葉で表しているが、まず「感じる」ことができないと次の行動ができないということである。何も「感じる」ことができないとただの見学会となってしまう。

インターンシップの良いところは、何か感じて感動をもらえるものであってほしいと考えている。

実際にインターンシップでビオトープを2年間の工期をかけて行ったが、1年目の学生は造成や下地の土木だけで残念ながら完成を見ることはなく、2年目になって仕上げをし、完成形を見ることができた。

完成したものに対してどう感じるかではなく、自分たちが携わって完成までもっていくことができたその過程を勉強できることが本来の形と思う。インターンシップはどうしても期間が短い、その中で過程を感じてもらうことが大切であると思う。

[モデレーター]ものづくりの課程を見ることがなかなかできないので、過程を体験できることは大きな意味があり、重要なことと思っている。次に、古民家再生で当校のインターンシップを受け入れている会社へご意見をお聞きする。

- ・マイスター(大工)会社:インターンシップで学生の皆さんに学んでほしいことは、学校とは違いプロ集団の中に入ること、現場の生の声、先輩、会社の社長など色々な役職の方の声を聞いて感じてほしい。

お客さん・施主さんからお金をいただいているため、間違える事ができないので一生懸命仕事をする真剣な現場の雰囲気を感じてもらい、それを持ち帰って将来に役立ってほしい。

学校で学んできたものを実践する場でもあると考えている。また、学生だけでなく受け入れ企業も若い社員(指導者)が学生に教えることで、若い社員(指導者)自身も学ぶことができる。学生と企業が一緒に学んでいけるところがインターンシップの良いところだと思う。

[モデレーター]受け入れる企業にとっても社員教育の一環である。と違った切り口の意見で、また、インターンシップに参加する学生には現場の真剣な生の声を学生に聞いてもらい、将来に役立ってほしいとの意見でした。学校側からの想いをお願いします。

- ・学校:専門学校は実務教育が中心である。会社に入って実務に困らないようにする内容を中心に授業をしている。

学校で学ぶ内容と実際の現場内容の差など、働くことに関する授業を行い、現場実習によって確認する。ということがインターンシップの基本的な考え方で実務教育

議題等

を進めている。

分かることと分からないことは当然あり、分からなくてもよいが、現場を見て、実物を見て生かすことがインターンシップの目的でもある。

また、職業人としてのプロの姿を見てほしい。働くことは簡単でやさしいことではない。辛くて嫌なことである。そのことを学生には早く分かってほしい、感じてほしい。

就職して仕事を始めたときに、自分に降りかかってきたことに対して、「こんなはずではなかった。」ということですぐに辞めることはしてほしくはない。仕事を辞めればそこでキャリアが終わる。仕事は色々な嫌なことがあるということを理解し、スムーズに仕事に取り組んで職業人としてプロになってほしい。そのために、学校は事前に十分教育しているつもりである。

[モデレーター] 現実甘いものではない。という教員から学生へ叱咤激励の意見があった。受け入れ企業や学校の意見を聞いてコメントをお願いしたい。

- ・教育機関：職業教育を専門にしている学校であっても実際の現場を見せないと学生になかなか伝えきれないところがあるため、現場が如何に重要なことであると感じさせられた。その中で、現場の方が如何に学生に伝える努力をしているのかということもよくわかった。

また、このように皆さんの支えがあることで学生の理解が深まること、まさにインターンシップのあるべき姿であると思う。一方、座学になるといくら頑張っても伝えきれない部分がある。

例えば、先ほどの設計のお話のように、電話での対応についても学生自ら感じて意識が変わった。門前の小僧の「習わぬ経を読む」といったように現場に出てみてできるようになるということが素晴らしい。

このような教育はヨーロッパのマイスター制度などに近い、皆さんの支えによって実践できている。今後、この取り組み内容について、見直しの改善する余地があるかもしれないが、色々なところへ反映してほしい。

[モデレーター] ありがとうございます。実際にインターンシップに行くと、学生が色々な仕事、人、物、情報などの生(実際の現場)なことを学ぶことがある。専門教育をしていく上で、学校としてしっかりと学生に定着させる、落とし込んでいく、一過性の教育にしない取り組み、学習と実践との融合・結合が課題の一つであると思うがどのように感じているか具体的なものを学校へお聞きしたい。

- ・学校関係：学生には目的や意義などをレクチャーしているが、我々教員が最も気を付けているのが、出欠確認より安全に関しては非常に気を遣う部分である。実習中では、実習先の現場監督(指導者)さんの説明が十分ではない場合は補助的な説明をする。

また、日々の日報のチェックも行うが、それよりも実習後の対応が重要である。学生が学んだことに対しての自分の考え方の違いなどを確認するために、本事業で開発

<p>議題等</p>	<p>したフィードバックシートを今年から採用している。実習前と後とで学生自身で意識の違いなどを確認するために活用している。</p> <p>その他、就職するときに必ず聞かれること、「インターンシップを通して自分がどのように変化したのか。」という質問に対しても対応できるように学生自身に自覚させること、自分自身が実習前と後とで変化したことを自覚し、意識を持って経験した結果を他人に言えるようになることが重要であり、そのツールの一つとして活用している。</p> <p>[モデレーター]インターンシップの体験前と後で学生自身の変化を自覚させることにより、日頃の授業の姿勢が変わってくる。</p> <p>インターンシップの事前と事後の取り組みは、卒業生の声からもあったが、インターンシップに来る前に勉強をして欲しいという言葉があったが、企業の立場として、実際にどのような教育を期待しているのか、学生に受けさせてほしいのか意見をお聞きしたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> 設計会社：事前指導であるが、ワークスタディの時に生徒と注意事項などを含めた合意書を交わすが、その趣意書の中には、「建築家を志すには、激しく長い道のりがなければならない、けれどもその体験は素晴らしい、学問を学ぶには学校で十分かもしれないが、実技を修めるには実務を通じるしかない～(以下略)」といった概念を述べて学生と合意書を交わすが、建築というものは自分が考えたものが形になって残るものである。残ることによって人々が評価する。 <p>故に、失敗しても簡単に壊すこともできないため、事前指導にもものづくりの大切さを学校では教えてほしい。</p> <p>現在、特に一級建築士の合格率は7%程度であり、非常に難関である。建築家を目指すには相当の覚悟が必要である。合格してもすぐ仕事ができるわけでもない。構造、現場、設備など多岐にわたって理解することが必要であるため、建築家として一人前になるには14～15年は必要と思われる。</p> <p>本当に建築が好きでないと途中で挫折し続けることが難しくなる。単なる憧れではなくそのことを理解し、覚悟をもって進んでほしい。</p> <p>先生方と意見交換会をするが、その中で興味深かった内容を紹介する。学生が実習途中で帰る学生がいる。学校の先生方に聞いてみると、ここ数年親の給料が上がらず、奨学金をもらっている苦学生が多い。卒業する頃には300万ほどの借金を抱えている。大学院に進むとさらに多く借金を抱える状況で、設計事務所に行きたくても設計事務所の給料では返済できないため、ある程度給与水準の高い企業へ就職する。純粋に設計事務所に就職する学生が少なくなっている状況である。というような情報交換を学校の先生方と行っている。今後、デュアル教育をどのように進めて行くのかを話し合っている。</p> <p>現状においてのワークスタディは、事務所の事情で長期間受け入れることは難しい。提案として、設計の進め方や作品紹介、設計事務所の紹介など体験に基づく出</p>
------------	---

議題等

前授業などでできれば、企業と学生の距離が縮まると考えている。
[モデレーター]非常に有効な提案をいただきましてありがとうございます。また、設計することの難しさ、覚悟について学校で教えることは非常に難しい。そのことを企業で教えていただける機会であるインターンシップへの継続的なご協力のお言葉ありがとうございます。次に施工についてご意見をお聞きしたい。

- ・施工会社：学校さんとは17年間にわたりインターンシップの受け入れ協力をしている。学校の卒業生も弊社には多数在籍している。技術は順番に習得していくが、心（意識）はなかなかどうにでもなるものではない。学校の卒業生を例に挙げると、そのときに新名神のサービスエリアに従事していた際にインタビューを受けていたが、その際に、「将来、結婚し家族を持った時に子供にお父さんが作ったものとして見せ、胸を張りたい。」と言っていた。入社後の数年間で技術の研鑽をし、知識を重ね続けることで意識が上がり、自覚してことでこの言葉が出てきたと思う。この度、ようやくフィードバックシートが開発されたが、個人的な意見としてフォローアップシートも提案した。当初はやりっぱなしという感があったことは否めなかった。

フィードバックシートは、学生が今自分のやりたいことが分かる。興味があることは多く書くが、興味が無いことには文章量が少ない。その点を補うためにフィードバックシートに書き込む。そのことによって少しずつではあるが意識の変化出てくるものと思っている。

品質・安全という管理部門に所属していて、新入社員によく言うことがある。意識を変えるには、まず、知識を入れること、知識を積み重ねることによって少しずつ意識を変えることができる意識はすぐに変えることはできない。

知識を積み重ねていくと自ずと行動が変わってくるようになり、それを続けていくと習慣となってくる。そうなる自然に人格（性格）が変わってくると言われている。人格（性格）が変わると人生・運命が変わる、意識が上がると行動が変わる、行動変われば習慣変わる、習慣が変われば人格（性格）が変わる、人格（性格）が変われば運命が変わる。と繋がっている。

フィードバックシートは、まず学生の意識を変える第一歩のものであると考えているので、これをもっと改良を重ねて学生の意識を変わるようにしていったら良いと思う。

[モデレーター]今回の事業でフィードバックシートの開発をしている。もっともっと改良を重ねて知識から意識から行動、習慣に変えていくご提案ありがとうございます。次に造園でのご意見をお聞きしたい。

- ・造園組合：施工会社の考えと同じである。実習する前に目的や意義を確認する。インターンシップ期間中に日報に書き記し、その後、フィードバックシートや感想文を書かせるようにしているが、その場限りのものでなかなか習慣化させていくことがなかなかできない。

議題等

インターンシップした時だけではなく、学生期間日常的に習慣化させることができないのかと考える。身に付けるように書き留めて検証させる。ここで得たものを習慣化させることを学校でサポートできる体制が作れないのかと考える。

また、ソフト面では、夢を持てるような境遇や環境を作ってほしい。知り合いの造園家で東京のど真ん中に庭を造りたいと色々な人々に夢の話をしてきた。

その内に、東京の六本木のビル内に庭を造った。他人に言うことによって自分を追い込み、努力することを怠らなくなる。

このように、言い続けることによって彼には多くのチャンスが訪れてくる。彼はどんどん目の前に現れてくるチャンスを次々に掴むことができ、現在では世界中で活躍している。

学生の皆さんには、現場に行って感じて、友達やみんなに夢を話すことで自分を追い込み、それを現実的にできるチャンスがたくさん訪れるようになる。そのような行動や機会を作ってほしい、夢を持って行動することはすごく大事なことである。

現実的には、技術の習得が前面に出てきてはいるが、その裏には夢を持たないと身に付かないと思っている。

[モデレーター]実際の生の現場で体験したことを学校の中でどのように落とし込んでいくのか、企業のみなさんは学校で授業をしていないため、難しいことであると思う。

設計で出前授業の話があったが、学校から出るインターンシップの形だけではなく、企業から学校へ来てもらい、色々な話を聞くなど継続してできるような取り組みが必要であると感じた。次にマイスター(大工)からのご意見をお聞きしたい。

・マイスター(大工)会社:インターンシップの大工部門で学校に要望したことは、「地域創生」である。ご存知の学生も多いとは思いますが、過疎化や高齢化の問題で空き家物件がかなり増えてきている。

そこで、かやぶき屋根の改修をする仕事が入ってきているところを学校の建築科や大工、造園、左官の方々の力をお借りして、みんなの力で一つのものを作り上げて地域の方々に使ってもらう活動をしている。このようなみんなの力で一つのものを作り上げる活動は、デュアル教育に関連が出てくると思っている。

確かに、学校で学んだことを振り返って学習することもあるが、これからは学校で学んだことを通じて地域の方々や地元に着目して仕事を頑張っていくというやり方の授業もあると思う。

また、地域創生のテーマを学校に提案したことに対し、学校は快く受け入れてくれたことは大変嬉しく思っており、インターンシップを継続的に受け入れる取り組みを続けている。

[モデレーター]ご提案をいただくことは、当校にとっても非常にうれしいことである。東日本大震災の際にも、仮設住宅を造りに行ったり、津波で流されたため、車を整備しに行ったり、今回も岡山の真備町の車を修理したり、日頃自分たちが学んでいる技術でボ

議題等

ランティアや地域貢献をしていくという考え方で教育をしている。
インターンシップでは、日頃自分たちが学んでいる技術が、世のため、人のために実際に体感できる教育のできる場と思っており、今後もこのような理念の基、継続的に行っていききたいと思っている。大学でもインターンシップを色々な形で実施していると思われるが、日本インターンシップ学会に加入している大学はどのように進めているのか。今後の企業内実習の充実を進めていくためのガイドラインのブラッシュアップなどの観点からお聞きしたい。

教育機関：フィードバックシートを開発できたことはすごく良いことである。リスク管理や目標管理でP D C Aサイクルをよく使われるが、そのチェックにあたるところがフィードバックシートになると思う。日本インターンシップ学会でもよく言われているのが、単にインターンシップに行っただけでは偉いことではない。

インターンシップに行き振り返ることにより、どのようなことが身に付いたのかを自分の言葉にすることが大事である。これがまさにフィードバックシートの発想で、定型的な形に落とし込み、次にアクションという対応策を考える。それが施工会社の方からの意見として出たフォローアップシートになると思う。チェックをして自分の弱み強みがわかった。その後どうするのか。それをどのようにしてプランに落とし込んでいくのかそのプランの中に、本日の話の中にあつた大きな夢が必要であることや地域創生、自分たちが学んできた技術による仮設住宅建設や車の整備という次の志に繋げていく。Plan→Do→Check→Action→Planというように、学生にとって実習体験を如何に落とし込んでいくのかということについて、ガイドラインがシステムチックにしていくための良いご提案をいただきたいと思います。大変勉強になった。

[モデレーター]ありがとうございます。岡山県の岡山科学技術専門学校の方からのご感想をいただきたい。

[岡山技術科学専門学校]非常に参考となるインターンシップの取り組みであると感じた。本校もインターンシップに向けてシステムを構築しているが、フィードバックやフォローアップまでは行き届かない。非常に目に見えないところでの学校や教員側の努力や苦勞があるのでこのような取り組みができていたと感じた。その努力や苦勞な点について一端でもお聞きしたい。

[日本工科大学校]一部の学生とのやり取りを聞いて見ていただいていたと思うが、学生の個人個人の性格を見て、現場のマッチングを重要視して進めている。カリキュラムの作成や時間調整など学生に見えないところで先生方は苦勞している。

[モデレーター]次に本フォーラムについて、兵庫県企画県民部管理局私学教育課濱本様と文部科学省総合教育政策局生涯学習推進課専修学校教育振興室福島様からご意見をお聞きしたい。

[兵庫県企画県民部管理局私学教育課]地域創生という発言があつたが、兵庫県では地域創生は非常に重要なキーワードになっている。このフォーラムで地域創生の話が聞け

議題等

て有意義でした。若い学生たちには、勉強が非常に大変なことは理解するが、夢を持って突き進んでほしい。

[文部科学省総合教育政策局生涯学習推進課専修学校教育振興室] 本日は貴重な発表をいただきましてありがとうございました。社会人になると自分のデスクで仕事するだけではなく、他の企業の方々やお客様、依頼される方などコミュニケーションをする場が多くある。このような人前で話す経験を生かして社会へ羽ばたいていってほしいと思う。

デュアル教育の話に移すが、皆様の声を聞くと、やはり高い教育効果があると分かった。例えば、職業観の話であったり、安全の話であったり、学校の中だけで学ぶことがなかなか難しいことなどを実際の職業の場に行き刺激を受けることが大変重要なことを改めて感じたところである。より良い教育を国として改めて振興していかなければならないと強く感じた。

最後に、国として時代を担う皆様が学んでいける環境を整備すること学びを提供できる学校をより多く振興していくことを今後も進めていく。ありがとうございました。



ありがとうございました。デュアル教育は今年で3年目の総仕上げの年です。先ほど話が合ったフィードバックシートやフォローアップシートを成果の中に盛り込んで、全国の専門学校で活用していただけるようなガイドラインを作成したいと思う。あと少しの期間ですが、ご協力をお願いします。これでパネルディスカッションⅡを終了します。

7. 閉会挨拶

本日はご出席の皆様、長時間ありがとうございます。本日いただいた意見を参考とし、先ほど述べられた通り、ガイドラインのブラッシュアップを図り、より一層充実したものを作り上げ、全国の専門学校へ発信したいと思います。今後も、何かご意見等がございましたら、ご指導お願いいたします。との閉会の挨拶でデュアル教育推進フォーラムが終了となった。

以上

会議議事録

事業名	平成30年度「専修学校による地域産業中核の人材養成事業」 建設分野における産学協働教育体制のためのガイドライン作成事業
代表校	専門学校日本工科大学校
会議名	本事業の取り組みのガイドライン作成の方向性と内容について第三者との意見交換
開催日時	平成30年11月21日(水) 9:00~12:00(3h)
場所	ものづくり大学 会議室
出席者	①委員 ・中農一也(計1名) ②ものづくり大学 ・高橋宏樹(技能工芸学部建設学科教授)、平岡尚文(技能工芸学部総合機械学科教授・ 教務長・就職支援本部長)、宮本伸子(参事・教務・情報課長・カリキュラムコーディネー ター)、星野敦志(学務部学生課 課長)、齋藤由匡(学務部学生課 就職・インターン シップ係 係長)、島村知佳(学務部学生課 就職・インターンシップ係)(計6名) (参加者合計7名)
議題等	会議の目的、次第、内容等を記載(必要に応じて別紙等で補足) 【会議目的】 ・デュアル教育を推進するために、インターンシップを盛んに実施しているものづくり大 学に訪問し、本事業の取り組みに対して比較参考となる意見交換を目的とし行った。 【次第】 日時:平成30年11月21日(水)9:00~12:00 会場:ものづくり大学 会議室 1.開会 2.議事 (1)インターンシップの在り方について (2)ものづくり大学の長期インターンシップについて (3)作成したガイドラインについて 3.閉会 <配布資料> ・インターンシップの手引き ・インターンシップ研修ノート ・インターンシップ成果報告書 ・インターンシップ受入のお願い ・大学要覧

議題等

【内容】

1. 開 会…

本日はお忙しい中ありがとうございます。現在、文部科学省委託事業において専修学校におけるデュアル教育推進事業を取組んでいます。つきましては、本事業に対する助言をお願いいたします。

2. 議 事…

(1) インターンシップの在り方について

・充実したインターンシップにするには、学生のインターンシップに向けた意欲や向上心が大切だと感じていますが、インターンシップの事前指導において意欲や向上心を高めるには、どのような指導が必要だとお考えですか。

→ものづくり大学の学生は、中には意欲を感じられない学生もいるが、インターンシップを目的として入学している者が多いので、意欲がある学生は多い。

→学生自ら企業を選択からテレアポ取り、打ち合せするなど自主的に行動するプロセスを実施している。

→インターンシップ受け入れ先20～30の企業担当者が、直接学生と個人面談や事前指導を行い、企業協定書に基づき、学生自ら誓約書(企業情報守秘、金髪禁止、ピアス禁止など)を提出させる形式をとっている。

・貴大学ではインターンシップを何回実施していますか。

→2回生と4回生の2回実施している。

・インターンシップ実施後の事後指導に、経験・体験したことの内面化を図るためには、どのような取り組みをしていますか、また、その他にどのような取り組みが必要だと考えていますか。

→本校の学生には、インターンシップ報告書の提出を義務付けることを掲示している。

→後輩にインターンシップ内容と企業の説明を行い、全学生に体験を共有している。

→企業を招いた報告会を開催し、投票結果で優秀者を表彰する。

・インターンシップでは、学校で学んだこととインターンシップでの経験が相互に作用し、専門性や職業実践力等を高めていくことが期待されています。

この相互作用による学修の深化を図るためには、どのような取り組みが必要だと考えていますか。

→インターンシップをキャリア形成の一環として位置付けているため、特に取り組んでいることはない。

→「社会人教育(1単位/年)」の授業でインターンシップの体験を取り上げ、就職活動に活用している。

議題等

(2)ものづくり大学の長期インターンシップについて

- 2回生と4回生の2回実施していますが、インターンシップの内容はどのように異なりますか。
 - 当校は4学期制を取っており、長期インターンシップは2回生2学期に40日の期間を設けて実施している。
 - 4回生のインターンシップは、卒業研究でインターンシップを課題として取り上げた学生が実施するものであるが、内容は同じである。
 - 当校は1学年150名の学生数が学んでいる。インターンシップでは1社あたり2～3名を受け入れてもらうので、50～60社へ最低2回は教員が訪問することになっている。
- インターンシップを2回生と4回生の2回実施しており、内容はほぼ同じということですが、どちらかをメインとして考えていますか。それとも同等と考えて実施していますか。
 - 基本的に2回生のインターンシップがメインである。
 - 以前は3回生でインターンシップを実施していたが、就職活動のことを考えると、タイミングとしては2回生の方が学生自身に将来のことを考えさせる機会となり、学修面からも好ましいという部分で2回生がメインと考えている。
- 40日の長期インターンシップになった場合の報酬はどのようにしていますか。
 - 基本は無報酬である。ただし、企業によっては、交通費、食費、寮費などを提供する場合もある。
- 受け入れ企業との関係で学生によってインターンシップの時期が異なることはありませんか。
異なる場合、座学の一斉指導が難しくなると思いますが、どのような調整をしていますか。
 - インターンシップ実施期間の基本は、2学期(6/15～8/12)の期間で実施しているが、建設現場のタイミングなど企業現場の都合で実施時期がずれる場合があることから、2学期の終了後の夏休み期間を利用して調整している。

(3)作成したガイドラインについて

昨年度までの本事業の取り組みの中間まとめにおいて、当校が作成したガイドライン(案)についてご意見をお願いいたします。

- インターンシップは、「安全第一」が最重要なことであるため、受け入れ企業との安全教育の連携をより重視している。
受け入れ企業との安全教育の連携は、貴校と同じ考え方で実施しており、この部分を強調していることは共感できる。
- 企業情報の守秘義務などを盛り込んだ企業協定書・学生誓約書を結ぶことがポ

議題等

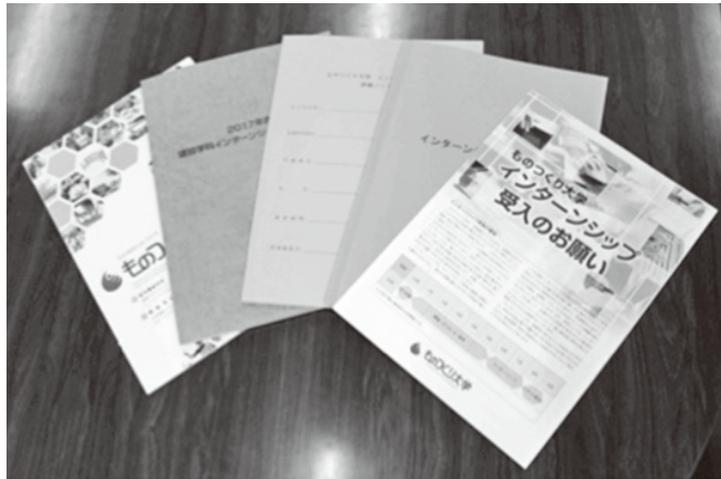
イントであると考えている。

学生から誓約書を取ることを徹底を図ることにより、失敗すると、次年度から受け入れてもらえなくなるという緊張感をもってインターンシップに参加させることができる。貴校もガイドラインでこのことを示した方がよいと思う。

→長岡科学技術大学、長崎総合科学大学野のものを参考にものづくり大学はインターンシップを実施しているので、ガイドライン作成の参考にしてみたらどうか。

等

【委員一人のため意見交換風景写真無し、配布資料写真】



本日は、お忙しい中お時間をいただきまして誠にありがとうございます。成果報告書ができましたらお送りいたします。との言葉で意見交換散会となった。

以上

会議議事録

事業名	平成30年度「専修学校による地域産業中核的人材養成事業」 建設分野における産学協働教育体制のためのガイドライン作成事業
代表校	専門学校日本工科大学校
会議名	第三者評価委員会会議
	平成31年1月25日(金) 17:00～19:00(2h)
	専門学校日本工科大学校 会議室
出席者	①委員 ・安孫子勇一、宇高雄志、片山俊行、堀内秀樹、丸野 修、森本徹之 (計6名) ③事務局 ・古河邦彦(計1名) (参加者合計7名)
議題等	会議の目的、次第、内容等を記載(必要に応じて別紙等で補足) 【会議目的】 ・デュアル教育の汎用的なツールとして進めているガイドラインについて意見交換と確認を目的とした会議を開催した。 【次第】 日時:平成31年1月25日(金)17:00～19:00 会場:専門学校日本工科大学校 会議室 1.開 会 2.議 事 (1)成果物:開発するガイドラインについて検討 (2)評価シートへの記入 3.その他 4.閉 会 <配布資料> ・議事次第 ・平成29年度成果物 ・ガイドライン(案)「施工編」

<p>議題等</p>	<p>【内容】 以下、次第に沿って会議が進められた。</p> <p>1. 開 会… 事業責任者の片山校長から、本日の会議の流れは、第三者委員会についての説明から成果物について説明し、意見交換をし、評価シートに記入をしていただき、本会議の終了という流れになります。との挨拶によって第三者評価会議が開催された。</p> <p>2. 議 事… 【第三者評価委員会の説明】 ・第三者評価委員会は、本事業で開発する成果物に対して、評価するものである。成果物は、主に全国の建設関係の専門学校へ発送する。よって、全国的に参考となるのかをチェックしていただく委員会である。等</p> <p>【成果物：ガイドラインの説明】 ・本年度は、昨年度開発したものを改善する方向で行う(平成29年度成果物参照)。 特に、大きく異なるのは、文部科学省より、「施工」、「設計」、「マイスター(大工・左 官)」と3種類作成する方が良いのではという意見があったので、分けて作成する方向である。 成果物は共通の部分が多く、中身の構成は同じであるが、職種特有の部分が若干ことなることになる。 本日は、施工の部分を見ていただき、指摘いただく、指摘の部分については、「設計」と「マイスター」へ反映していく。</p> <p>・ガイドライン「施工編」の説明が次のように行われた(配布資料ガイドライン(案)「施工編」参照)。</p> <p>・はじめに、活用にあたってのデュアル教育の状況があり、次にデュアル教育の意義として、学修の深化、社会人としての必要な資質、職業適性の自覚と入り、次ページに本書の特徴から入っていく。 本文に入り、構成は概要、教育の要点、具体的な方法、教育支援ツール、Q & Aと5章から成り立っている。</p> <p>・第1章の説明が行われた。建設分野における専修学校教育の課題認識として、現代の青少年の課題、建設分野における専門学校教育の課題があり、本ガイドラインの趣旨・目的は専修学校と企業が連携して建設業界の人材育成・人材確保協働プロジェクトということを簡略化して説明している。等</p> <p>・第2章は昨年度と同様である。デュアル教育の意義をもう一度大きく3つに示して、学校側のメリットと企業側のメリットを具体的な調査によった内容を書いている。他の特徴として1日型のインターンシップが増加傾向であるが、雇用のミスマッチを防ぐものではなく、会社説明会的なものであり、やはり1週間以上のインターンシップは</p>
------------	---

議題等

必要であるなどトピックス的なものを本書に所々入れている。等

新たにデュアル教育のプロセスアプローチを入れた。失敗事例が動機付けの部分や準備活動、事前指導、実習中の真剣みが無いなどを列記している。内的動機付けは積極的であり、外的な動機付けは消極的になっているなど図で示した。課題意識も構成することが必要であるということで、イメージとしての図も方策例を入れて作成した。等

次に基本的な考え方として、基本方針、推進上の課題、基本的な推進方法として、単位認定や適切に教育課題に位置付ける、学生に企業からの評価をしてもらう、業界団体の協力を得て行う、企業と事前協議、教員は原則毎日出向く、事前指導・事後指導の充実を図るなど入れている。また、大規模校の企業内実習をトピックス的に入れている。等

→この学校は実習中毎日巡回しているのか。

→毎日は巡回しないが、何か起きた際に緊急連絡表を学生に渡しており、何かあった際には学校に連絡を入れるようにしている。必要であれば学校から実習先に行くようなシステムにしている。

→きちんとした仕組みにしていることはすばらしい。等

他に、造園のトピックスを入れた。実際に当校で行っていることであるが、現場は教員が探している。理由としては、受け入れ先企業が探すどうしてもプロが作業する場所になるのでそのようにしている。等

→実習に参加する学生は、高校時代は農業系の経験があるのか。

→中にはいるが、基本的には土木コースの農業土木に興味がある学生が参加している。等

第2章までは、「施工」、「設計」、「マイスター(大工・左官)」とも共通内容で作成する。

第3章からは、それぞれの特徴を取り入れた内容となっている。

・第3章の「施工編」の説明が次のように行われた。

デュアル教育の具体的な内容及び構築方法として大きく「デュアル教育実施にあたっての考え方」と「デュアル教育の具体的な実施方法」の2つに分けている。

デュアル教育実施にあたっての考え方は、施工分野の企業内実習の特性、受入企業の開拓、企業内実習の実施期間、企業内実習の時間等、一つの企業の受入人数、初めて企業内実習に取り組む学校が留意すべき点について説明を入れながら書いている。

デュアル教育の具体的な実施方法は、学生の受入企業へのマッチング、受入企業との打ち合わせについて説明を入れながら書いている。等

・第4章の教育支援ツールの説明が次のように行われた。

基本的には、どのように活用するのかということを示すため、記入例と様式を見開きで作成する。

→誓約書が2種類あるのであればタイプ1やタイプ2などの書き方が良いと思う。

議題等

学生が書いたものは、現実感があるので良いが、読みにくいものは、手書きに見えるように打ち直す方向である。

また、各支援ツールにねらいや使用場面を記入例の上部に入れて作成する。等

・第5章のQ & Aの説明が次のように行われた。

ほとんど昨年と同じであるが、若干ではあるが、それぞれの職種に合わせて作成した部分が入っている。1～7の項目で構成している。

受け入れ企業の決定の部分については、普段から地域づくりへ参加することを入れる予定である。地域づくりに参加しているとネットワークができるので、その中から受け入れ企業を探す方がスムーズに進むと考える。

現在、作成案的であるのが、このような方向性で進めている。全般的にご意見を伺いたい。

<意見交換>

・10ページの(5)、(6)、11ページ(1)、12ページのところは色が重なっていて読みづらい。影を付けているのであれば必要ない。

・活動にあたっての部分が、青の背景で青文字なので読みづらい。読みやすい色使いを検討いただきたい。

・建設分野ガイドラインが何分冊あるのか分かるように数字があった方がよい。設計や施工を順番的に、ガイドライン①②などつながりが分かりやすいように入れた方がよいと思う。

→目次前のページにある図の部分で、本ガイドラインの構成の部分に3分冊と入れた方がよい。

・15ページの講義と実務のデュアル教育で学生が進化することにおいて、カリキュラムの提供側として学生が実習を経験したことにより、専門用語を多く取り入れた応用部分をさらに深くしていくのかなどの見直していく必要があるのか。経験を踏まえてどのように感じるのか。

→学生自身が変わってくる。例えば、C A D I の基本操作を教えている段階で設計事務所へ送り出し、実習から戻ってきた際に、応用したCADの使い方を教えてもらっていて、それがどういうことなのかを聞いてくる学生はいる。それが次の段階へのステップアップC A D IIに入るという流れになる。

→学生が実習で学ぶことに対して、現在行っているカリキュラムを見直すことになるなどの先生がプレッシャーになることはあるのか。

→時代的な要因によって反映することはあるが、プレッシャーなどはない。実習先に訪問することによって教育内容の提案をいただくことはあるが、それは教員の成長となる。

→教員側の進化の部分も取り入れれば、学校側も変わると感じた。それがどのように

議題等

取り入れ方が上手く思いつかないが。

→検討する。

・巡回指導で「毎日行く」と入っているが、できるのか。

→毎日同じ企業へ行くのではなく、同時期に複数の企業へ学生を実習に出している
ので、毎日、その実習先を指導しに回るということである。

→同じ会社でも3日に1回行くなどということか。

→ご理解の通りである。

→他の学校はプレッシャーにならないのか。

→可能であれば、デュアル教育を取り入れるということを考えると「毎日」という表現は
プレッシャーを与えることになると思うので避けた方が良いのかもしれない。

→「毎日」の表現方法を変える。しかし、ただ単に汎用性だけを考えるのではなく、引っ
張っていくイメージで作成したい。

→ポイントとしてあった大規模校のマニュアルのように、書面でできることなどを整理
した方が良い。

→検討する。

・4ページのフロー図の部分で「人材育成・人材確保」というよく使われる表記がある
が、先に人材の確保があって次に育成していくので、「人材確保・人材育成」の方が良
いと思うがどうか。

→企業からの視点でいえば、ご指摘の通りであり、学校視点となると「育成」が先にな
るがどうか。

→並列ではあるが、デュアル教育とはなっているもので、学校視点からの育てることか
ら入る「育成」が先と思われる。

→建設業界の入口に入ったことを考えると「確保」が先と感じた。

→再度、検討する。

・先に様式があって、記入例が見易いと思う。

・38ページの巡回指導のイメージ図の企業Aと企業Bの内容が違うことであれば分
かるが、全く同じである。これはどの企業に対しても同じ内容で行うことなのか。

→巡回指導をするにあたり、どの企業に行っても同じことを行うというイメージで作成
した。

→複数同じものを書くことによってイメージし易くするということ。

→単にタイトルをイメージ図とするのではなく、巡回指導をいれるなどタイトルを検討
する余地がある。

→巡回指導を学校が行うようなイメージする矢印みたいなものがあれば良い。

・表現のチェックは別として全体的にはよくできている内容と思う。疑問に思うのが専
修学校において現場に出ていない学校はあるのか。これからやるところや全くやって
いないところはあるのか。

会議議事録

議題等

→文部科学省からはそのような学校があるということで、その理由としては、ノウハウが無いからであり、そのようなものを希望している。

一方、企業内実習を取り入れているとしても1日の見学会的なものを取り入れている学校が多く、1週間以上などの期間になると行っている学校数は極端に少ない。

→工業高校などを例に挙げても1週間ぐらいが標準と感じているが。

→兵庫県は業界自体で協力しているので他の地域よりも進んでいる。他の地域では業界自体が進んで協力する体制では無いようである。等

その他、誤字脱字、表記の統一といったところは、再度見直していきます。ガイドラインとしてのお気づきの点がございましたらご連絡ください。

・評価委員による評価シートへの記入が行われ、記入後本会議散会となった。

【会議風景】



以上